

徒と協議し寄附金四百圓を募集し直ちに
工事に着手し明治四十二年二月改築竣工
せりと

眞誠宮

所在 嘉義市柴頭港八〇

教別 儒教
祭神 上帝爺、太子爺、土地公、土地婆、
虎爺

創立 不詳
信徒 百人

例祭 舊曆三月三日

管理人 柴頭港一〇二 李 昌
財產 祠廟敷地〇甲二〇九五、原野一甲二
一八〇

沿革 本廟の創立改築修繕等一切不明
なり

上帝爺廟

所在 嘉義市港子坪三四九

教別 儒教
祭神 上帝爺、土地公、池府王爺

創立 不詳

信徒 二百人

例祭 舊曆三月三日

管理人 港子坪三三 鄭 白本
財產 祠廟敷地〇甲一六八五

沿革 本廟の創立年代不明なり祭神は
元一庄民の宅に祀りありしが祭典其他不
便の事多きより庄民協議の上本廟を建立
せりと云ふ併し現今は甚だしく荒廢して
舊態を存せずと

三間仔

所在 嘉義市劉厝

教別 佛教

祭神 觀音佛祖、上帝爺、池府王爺、土地
公、關帝爺

創立 明治三十一年

信徒 六十人

例祭 舊曆二月十日、二月十九日

管理人 劉厝一九〇 邱 建 祥

沿革 明治三十一年の建立にして甚だ
粗末なる一小宇なり尤も此廟宇建立に依
つて部内繁昌せば直ちに改築の筈なりし
に却つて惡疫流行して死亡者多く明治四
十年頃遂に倒壊せり爾來再興を希望する
者あれど前述の如くなれば又々惡疫の流
行を恐れて再興を望まざるもの多しと

水竹寺

所在 水上庄湖子内

教別 佛教

祭神 觀音佛祖、福德爺、王公、王媽、虎爺

創立 明治三十一年

信徒 八十人

例祭 舊曆二月十九日、八月十九日

管理人 湖子内一五一 羅 定 國

財產 田〇甲五三二〇、畑一甲〇八七〇

沿革 當庄民の大部分は羅姓なり明治
二十九年同姓の者協議の上祖先を祀る祖
厝を建立するの計を立て羅松、羅明溝發
起となり寄附金四百二十圓を集め本廟
を建立せり此の祖厝に佛祖を祀るは羅姓
と祖を一にせる南靖庄の後寮に觀音佛祖
を祀る小祠ありしが明治三十七年の暴風
雨に倒壊したれば佛祖を祖厝に遷祀した
るものなりと

保元殿

所在 水上庄湖子内

教別 儒教

祭神 玄天上帝、天上聖母、太子爺、土地
公、土地婆、三官大帝

創立 道光丁酉年

信徒 百八十人

例祭 舊曆三月四日

管理人 湖子内四九 羅 傳

財產 祠廟敷地〇甲二六五〇

沿革 本廟の祭神は庄民が支那より奉
じ來りたるを庄民協議の上廟宇を建て奉

祀する事としたるものにて其創立は道光丁酉年なり其後明治三十九年の地震に大破せしかば信徒協議の上寄附金五百餘圓を募集し同四十一年改築せりと

仁安宮

所在 水上庄崎子頭六六七

教別 儒教
祭神 上帝爺、五谷王、福德爺
創立 光緒十七年
信徒 百二十人
例祭 舊曆三月三日
管理人 崎子頭七〇九 黃 章
財產 祠廟數地〇甲二五七〇

沿革 〓初め内溪州の陳、黃、曹、林の四人共同にて當庄民に金員を貸與したるが其の元利年々増殖して明治二十三年は一千圓の多額となりたれば四人は之を分配せんとして紛争を起し談容易に纏まらず遂に此金全部を以て廟宇を建立する事となり明治二十四年本廟を建立せりと

文衡聖帝

所在 水上庄崎子頭

教別 儒教
祭神 關帝爺、關平、周倉
創立 明治三十八年
信徒 四十人
例祭 舊曆一月十二日
管理人 崎子頭四八一 李 陣
財產 祠廟數地〇甲二〇六五

沿革 〓明治三十八年當地の有志相謀り釀金四百二十餘圓を募り本廟を建立せり之れ當部落に廟宇なく祭典其他に不便少なからざりし爲めなりと

保安宮

所在 水上庄水上

教別 儒教
祭神 保生大帝、吳、孫、許三神、觀音佛

祖、太子爺、土地公、虎爺

創立 同治十年

信徒 五百人

例祭 舊曆二月十五日、九月十五日

管理人 水上五〇三 賴 准

財產 建物數地〇甲一〇四〇

沿革 〓同治十年當地在住の漳州人が釀

金創立せるものにして、其後明治十年廟宇狹隘を告ぐるに至りたれば賴喃、賴位李條發起して庄民より寄附を募りて改築せり之れ現在の廟宇なりと

璿宿宮

所在 水上庄水上

教別 儒教
祭神 天上聖母、千里眼、順風耳、太子爺、觀音佛祖、善才、良女、註生々娘、伽藍爺
創立 乾隆二年
信徒 二千五百人
例祭 舊曆三月廿三日、九月九日
管理人 水上三三八 賴 水盛
財產 祠廟數地〇甲三〇九五

沿革 〓往時水堀頭は此地方に於ける商業の中心地なりしより同地の有志發起して附近二十七部落協議の上媽祖を迎へ前記部落にて共同祭典を行ひ且つ有事の際の會議所とする爲め乾隆二年本廟を創立せりと

福安宮

所在 水上庄水上

教別 儒教
祭神 三姓尊王(陳、江、蔡)、福德爺、虎爺
創立 道光十六年
信徒 三百人
例祭 舊曆三月三日、六月六日、九月九日
管理人 水上二七四 吳 其春
財產 池沼一甲三八九〇、祠廟數地〇甲〇二五一

沿革 道光十六年當地の吳清、吳華兩名發起して附近の同姓より任意の寄附を仰ぎ總額二千二百圓を得て本廟を創立せるものなりと

大衆爺廟

所在 水上庄水上

教別 儒教
祭神 大衆爺
創立 乾隆二年
信徒 二千人
例祭 舊曆六月十五日、七月廿八日
管理人 目下缺員

沿革 林爽文の亂に清軍に従ひ殉職せるものゝ靈を祀るものなれば恐らく乾隆五十四五年頃の創立なるべし其後明治三十九年の震災に廟宇倒潰したれば林文賢黃正果等發起して水堀頭の信徒より金千五百圓を募集し明治四十四年改築竣工せりと

福德祠

所在 水上庄水上

教別 儒教
祭神 福德爺
創立 乾隆四十年
信徒 六百人
例祭 舊曆二月廿三日、八月十五日
管理人 水上三三八 賴水盛
財產 祠廟敷地〇甲〇二〇〇

沿革 本廟の創立は乾隆四十年なりと云ふも其他の狀況不明なり然るに明治三十九年の震災に廟宇倒壊したれば同地の賴老等有發起して附近の信徒より寄附金千五百圓を集め明治四十五年之を改築せりと

元帥爺廟

所在 水上庄十一指厝

教別 儒教

祭神 謝安元帥、帝君、王爺
創立 明治四十年
信徒 五百人
例祭 舊曆七月廿六日
管理人 十一指厝 林聖
財產 畑一甲〇五六五

沿革 本廟の祭神元帥爺は往時林姓の一人が支那より奉じ來りて自家に祀りたるを其後當庄の林姓相謀りて爐主一、頭家八人を定め順次之等の家に輪祀し來りたるも祭典の不便且つ煩はしき事多きより明治四十一年信徒協議の上工費百八十餘圓を募集し本廟を建立し之れに遷祀せりと

新發寺

所在 水上庄南靖

教別 佛教
祭神 觀音佛祖、池府王爺、太子爺、李王爺、福德爺
創立 咸豐四年
信徒 四百人
例祭
管理人 南靖一六二 張烈
財產 祠廟敷地〇甲三五六〇、畑〇甲〇六一五

沿革 本廟は咸豐四年の創立なりと云ふも創立縁起其他一切知る處なし

祖厝

所在 水上庄南靖

教別 儒教
祭神 關帝、關平、周倉、媽祖、池王爺、白沙王、白沙王媽、羅美源夫妻
創立 同治六年
信徒 五十人
例祭 舊曆一月十三日、五月十三日
管理人 南靖四八六 羅方波

沿革 後寮の住民は大部分羅姓なり明治元年頃同姓の者協議して同地移住の祖先羅美源を祀るべく祖厝を建立せんと謀

り所屬財産より四百圓を支出して本厝を
建立せり而し其後關帝を請ひて主神に奉
じたりと

奉安宮

所在 水上庄外溪州

教別 儒教
 神 城隍爺、謝必安、范無救、上帝爺、
 關平、福德爺、虛事公、三寶佛
 創立 咸豐九年
 信徒 三百人
 例祭 舊曆六月一日
 管理人 溪洲五五 蔡羅漢
 財產 建物敷地○甲二四〇〇

沿革||本廟の創立は咸豐九年三月なり
と云ふの外關係事項一切不明なり其後明
治三十八年の震災に廟宇倒壊したれば信
徒協議の上外林、外溪州の部落より金一
千二百七十餘圓を募集し蔡壽、賴關等主
となり明治四十三年之を再興せりと

帝君廟

所在 水上庄外溪州

教別 儒教
 神 關帝、關平、周倉、孔夫子、三界公
 創立 明治三十七年
 信徒 五百人
 例祭 舊曆一月十三日
 管理人 溪洲四〇五 曾退

沿革||本廟の創立縁起詳らかならず其
後廟宇狹隘なりしを以て明治三十九年三
月同地の柯九なる者發起にて庄民より勞
力材料の寄附を仰ぎ改築せりと

苦竹寺

所在 水上庄柳子林

教別 佛教
 神 觀音佛祖、外に従祀十九體、配祀三
 十六體

創立 乾隆十九年
 信徒 四千五百人
 例祭 舊曆二月十八日、二月十九日、六月
 十九日、九月十九日
 管理人 柳仔林 黃舜文
 財產 建物敷地○甲〇〇〇八、田三甲一九
 一五、畑二甲二一五〇

沿革||乾隆庚午年崎子頭土名溪州の黃
乾なる者自宅に觀音佛祖を祀りしが林爽
文の亂に屢々靈顯あり亂平ぎて後庄民相
謀りて地を柳子林に選り廟宇を建立して
佛祖を遷祀せり然るに其後咸豐八年に至
り廟宇漸く荒廢せんとするより嘉義街の
郭海なる者寄附を募りて修繕を加へ更に
明治三十七年水堀頭の區長黃靖卿附近の
信者より金一千六百圓を募りて重修した
るに翌三十九年の大地震に大破したれば
再び黃靖卿發起して寄附金二千餘圓を募
り明治四十二年修復せりと

五谷王廟

所在 水上庄大堀尾

教別 儒教
 神 五谷王、天上聖母、福德爺、池府千
 歲爺、觀音佛祖、五顯帝、千里眼、
 順風耳、老將
 創立 同治元年
 信徒 八十人
 例祭 舊曆四月廿六日
 管理人 大堀尾四五六 江水溪
 財產 祠廟敷地○甲一八六〇、田一甲二一
 九〇

沿革||同治元年江姓の者相謀りて祖厝
を建立し祖先を祀りたるが同庄には其以
前より五谷王を祀る小祠ありしに三十年
前倒壊したれば此祭神を祖厝に合祀して
主神とせり其後明治三十九年の地震に廟
宇倒潰したれば江春來發起して同部落の
江姓より經費二百圓を募り同四十年之を
改築せりと

元帥爺廟

所在 水上庄大堀尾

教 別 儒教
 祭 神 謝大元帥爺、謝二元帥爺、謝三元帥爺
 創立 嘉慶八年
 信 徒 八十人
 例 祭 舊曆七月廿七日
 管理人 大堀尾四一〇 林 水大
 財產 祠廟敷地〇甲一三四〇、池沼〇甲三〇一五

沿革 嘉慶八年の創立なるも明治三十年の震災に倒潰し今や廟宇なし

徳如宮

所在 水上庄大崙

教 別 儒教
 祭 神 五谷王、元帥爺、祖師公
 創立 嘉慶十年
 信 徒 八十人
 例 祭 舊曆八月十五日
 管理人 缺員
 財產 祠廟敷地〇甲一九三五

沿革 創立は嘉慶十年と稱するも明治三十九年の震災にて大危険に瀕し明治四十四年取毀したりと

新興宮

所在 水上庄大崙

教 別 儒教
 祭 神 神農大王、神農二王、神農三王、公王、土地公
 創立 嘉慶十年
 信 徒 九十人
 例 祭 舊曆四月廿四日
 管理人 大崙二五五 呂 典
 同 五六八 沈 駕
 財產 祠廟敷地〇甲五六七〇、畑〇甲三四五〇、池沼〇甲八九三五

沿革 嘉慶十年當地の呂把なる者主唱し庄民より寄附を募り本廟を建立せり然るに明治三十七年十一月の震災に廟宇大

破したれば信徒協議の上寄附金を募り明治四十年大修繕を加へたりと

令興宮

所在 水上庄港口

教 別 儒教
 祭 神 三官大帝、福德爺、城隍爺、虎爺
 創立 同治十三年
 信 徒 九十人
 例 祭 舊曆八月十六日
 管理人 港口二一二 羅 乞 虐
 財產 祠廟敷地〇甲〇七三五、建物敷地〇甲二九一五、原野〇甲五〇二五、田〇甲〇三二〇、畑〇甲〇五三五、雜〇甲三九〇五、池沼〇甲四九一〇、墓地〇甲五四七五

沿革 以前は本廟の祭神を個人の宅に奉祀し居たるも祭典の際など不便少なからざれば庄民協義の上本廟を建立遷祀したり之れ同治十三年にして其他の状況は詳らかならず

三界公廟

所在 水上庄港口

教 別 道教
 祭 神 三官大帝、五谷王、觀音佛祖
 創立 咸豐三年
 信 徒 九十人
 例 祭 舊曆一月十五日、四月廿四日、十月十五日
 管理人 巷口七〇三 張 茂
 財產 祠廟敷地〇甲一七一〇、原野二甲二四六〇

沿革 巷口庄民の大部分は張姓なれば咸豐三年同姓の者相謀りて本廟を建立し同姓中の一人が自宅に奉祀し居たる祭神を之れに遷祀したるが其後歳月を経るまゝに廟宇漸く破損したれば大正四年張添發、張醜、張欲、張千送、張號、賴科等相謀つて信徒より寄附金約三百圓を募り之を改築せりと

關帝爺廟

所在 水上庄粗溪

教別 儒教
祭神 關帝爺、周倉、五谷王、觀音佛祖、上帝爺

創立 嘉慶十年

信徒 八十名

例祭 舊曆一月十三日

管理人 粗溪一二九 賴達

財產 田〇甲三二九〇、畑〇甲〇五三〇

沿革 當部落は大部分賴姓の者のみなるより同姓相謀りて祖先を祀る爲め嘉慶十年祖厝を建立せるが之れと相並んで公厝あり關帝を祀りたるが明治三十九年の震災に兩者共倒壊したれば祖厝信徒賴姓一同協議の上金三百圓を募集し明治四十二年祖厝を再興し關帝を祖厝に遷祀して主神とせりと

竹安寺

所在 水上庄下寮

教別 佛教
祭神 觀音佛祖、善才、良女、五谷王、土地公、三官大帝、媽祖、池王爺、范王爺、土地婆

創立 道光六年

信徒 四十人

例祭 舊曆二月十九日、八月十五日

管理人 下寮一九六 賴牛母

財產 祠廟敷地〇甲三九三五、池〇甲三三五

五五

沿革 本廟は道光六年の創立なりと云ふも當時の狀況不明なり其後明治三十七年十一月の地震に廟宇倒潰したれば庄民協議の上寄附金を募り勞力の寄附を仰ぎ明治四十二年改築竣工せり此の改築に關與して盡力せるは賴牛母、賴顏、賴定、楊知高等なりと

正興寺

所在 水上庄下寮

教別 佛教
祭神 觀音佛祖、福德爺

創立 光緒十六年

信徒 九十人

例祭 舊曆二月十九日、八月十五日

管理人 下寮四七一 賴柳

財產 祠廟敷地〇甲〇九四〇

沿革 本廟は今より四十年ばり前の創立にして始め下寮の賴土昌と云ふ者觀音佛祖を祀り居りしが嘉義水涵口街の富豪王某之を請ひ自宅に遷祀したるが靈顯の著しきものあるより嘉義北門内の李漳興も之れを信仰し以上三名發起の下に王某及李漳興は金百圓を寄附し下寮の住民は材料勞力を寄附して本廟を建立したるものなるが其後風水震災の荒らすに委せあるより目下甚だしく荒廢して危險の狀態にありと

星拱殿

所在 水上庄下寮

教別 儒教
祭神 上帝爺、天上聖母、觀音佛祖、福德爺、五谷王、李王爺、騎虎王、石千才、李太子爺、康元帥、趙元帥

創立 嘉慶十年

信徒 五十人

例祭 舊曆三月三日

管理人 缺員

財產 祠廟敷地〇甲〇六〇〇、田〇甲三一二五、畑〇甲一五二五

沿革 本廟の創立緣起等一切不明なり其後明治三十七年十一月の震災に廟宇倒壊したれば信徒協議の上何脚、賴乞食、陳誥、蕭誥等發起して寄附金品を募集し明治四十四年之を改築せりと

普竹寺

所在 水上庄番子寮

教別 佛教 (臨濟派)

祭 神 觀音佛祖、福德爺、文武判官
 創立 大正元年
 信 徒 五十六人
 例 祭 舊曆二月十九日
 管理人 番子寮 黃 垂

沿革 明治四十年十一月番子寮土名半
 月中の黃垂、黃乞食、蘇天豹等發起とな
 り半月中の在住民一般より金四百五十圓
 を募り明治四十四年十一月工を起し翌大
 正元年十二月竣工したれば柳子林の苦竹
 寺より觀音佛祖を勸請奉祀して本寺を創
 設せりと

上帝爺廟

所在 水上庄番子寮

祭 別 儒教
 神 玄天上帝、劍童、印童、媽祖婆、有
 應公、五谷王、福德爺
 創立 咸豐九年
 信 徒 十五人
 例 祭 舊曆二月十九日
 管理人 番子寮 林 帆
 財產 畑二甲〇二三〇

沿革 咸豐六七年頃嘉義縣總糧郭徳な
 る者病に罹り上帝爺に祈願して靈顯あり
 咸豐八年同人自から一小祠を營み玄天上
 帝を奉祀せり然るに明治三十九年の震災
 に大破せるを以て林帆及簡漏色發起とな
 り番子寮及檳榔樹角の住民より金百二十
 圓を募り明治四十一年之を修築せりと

張氏姑婆祖廟

所在 水上庄番子寮

祭 別 儒教
 神 英濟夫人、劍女、印女、妹姑婆媽、
 觀音佛祖、媽祖婆、五谷王、池府王
 爺、太子爺、土地公
 創立 道光二十九年
 信 徒 二十二二人
 例 祭 舊曆九月十六日
 管理人 番子寮 張 登 枝

財 產 祠廟敷地〇甲一六五五、畑一甲九九

沿革 康熙六年漳州人移住の時神像を
 奉持し來り張姓の祖家に奉祀し置きたる
 が道光二十九年に至り張氏海諒發起とな
 り番子寮の張姓より金二千圓を募り本廟
 宇を創建遷祀せり斯くて明治三十三年に
 至り廟宇漸く頽廢に傾きたれば張濟美、
 張猷廷、張元繁、張元恭、張德昌等發起
 人となり信徒と協議の上金百三十餘圓を
 募りて大修築を加へたるに今度は明治三
 十九年の震災に拜殿破損せるを以て張
 母、張德昭發起し所屬財產より經費を支
 出して重修せりと

三祝宮

所在 水上庄三界埔

祭 別 儒教
 神 媽祖、千里眼、順風耳、宮娥、上帝
 爺、油王爺、土地公、五谷王、關帝
 爺、關平、周倉、玄天上帝
 安政五年
 創立 千五百餘人
 信 徒 千五百餘人
 例 祭 舊曆三月廿五日、四月廿六日、七月
 廿六日、八月十五日、十一月十二日
 管理人 三界埔 簡 呆
 財產 祠廟敷地〇甲一八六九、田一甲〇八
 五五、畑〇甲一二八一

沿革 咸豐八年嘉義の富豪黃大漳三界
 埔に廟宇なきを憂ひ自から發起人となり
 て千百餘圓の寄附金を集め本廟を創建し
 北港及新巷の媽祖を分香して之を奉祀せ
 り斯くて同治三年同人の發起にて大修築
 を行ひたるが其後明治三十九年四月の大
 地震に廟宇大破したれば同地詹角の發起
 にて三角埔より金千五百圓を集め大修繕
 を加へたりと

騎虎王廟

所在 民雄庄民雄

教別 儒教
祭神 元帥爺、騎虎王、李王爺、土地公、中下將
創立 嘉慶年間
信徒 三千人
例祭 舊曆一月四日、一月十五日、三月三日、五月五日、六月六日、九月九日、十二月廿四日、十二月三十日

管理人 民雄 許振東
同 王瑞興
同 楊總
同 劉淺
財產 祠廟敷地○甲二九五〇、池沼○甲三九一五、田五甲五五〇五

沿革 嘉慶の初年王育奇外二十九名が支那より元帥爺を奉じて移住せる時當地に廟宇を建立せよとの神託あり依つて廟宇を建立し且つ所屬財産を寄進せり其後屢々修築を加へたるも之れを知れるものなく又た記録の徴すべきものなし其後明治三十九年地震の爲め廟宇倒潰したれば鄭明春の發起にて工費千圓の寄附を募り明治四十二年之を改築せり

保生大帝廟

所在 民雄庄民雄

教別 儒教
祭神 保生大帝、牛下將、虎爺、太子爺、土地公、土地婆
創立 乾隆十九年
信徒 八百人
例祭 舊曆三月十五日
管理人 好收 林光輝
財產 大正八年異動せる故不詳

沿革 乾隆十九年蕭作揖、林玉麟、陳殿輝、洪榮光、周文成、周修盛等協議の上共同出捐して本廟を創立し別に田地家屋及廟前池沼等を寄進せり其後光緒元年蕭長清外數名の發起にて工費六百六十圓を投じて大修繕を加へ越へて明治三十九年地震の爲め倒壊せしを以て蕭炳坤外數

名發起にて明治四十五年一月再興せり工事は所屬財産收入の蓄積金より支出したるものと思はる

三界公壇

所在 民雄庄東勢湖

教別 道教
祭神 三界公、虎爺、太陽公、元帥爺、上帝爺、觀音、五谷王、牛下將、土地公
創立 不詳
信徒 二百五十人
例祭 舊曆一月十五日、二月十八日、三月十五日、七月十五日、八月十五日、九月九日、十月十五日

管理人 東勢湖 許成章
同 許藝
財產 祠廟敷地○甲八二七五、建物敷地○甲二七〇〇、畑三甲六四六〇

沿革 創立縁起不明、其後光緒九年何元愷、許岳等の斡旋にて改築を加へたりと云ふも之れ又た詳細不明なり次いて明治三十九年の大震災に廟宇倒潰せしかば時の保正許猷忠發起人となり同庄内より金千二百圓を募集し改築せりと

觀音亭

所在 民雄庄番子

教別 佛教
祭神 觀音媽、韋駄爺、善才、良女、十八羅漢、太子爺、彌勒仙、達磨大師、玄天上帝、註生娘々、伽藍爺
創立 不詳
信徒 四百人
例祭 舊曆二月十九日、六月十九日、九月十九日

管理人 頂寮 何綱交
同 柳子溝 劉江濤
同 曾興
財產 祠廟敷地○甲四九七五、田○甲一二七〇、畑二甲三〇五五

沿革 創立縁起一切不明なり其後光緒七年打猫(民雄)の許邦線の膽入りにて

大修繕を行ひ明治三十九年の震災に倒潰せし時は何田發起人となり柳子溝、南靖厝、頂寮等の部落より寄附金二百圓と材料勞力の寄附を受け再築せりと

大帝爺廟

所在 民雄庄番子

教別 儒教
祭神 保生大帝、虎爺、土地公、池府王爺
創立 不詳
信徒 二百人
例祭 舊曆三月十五日
管理人 番子 賴棟
同 賴豆變

沿革 創立不詳偶々明治三十九年の地震に崩壊したれば當庄の頼來發起して醮金を集め再興せりと

慈運亭

所在 民雄庄竹子脚

教別 佛教
祭神 觀音佛祖、善才、瓦女、十八羅漢、十八伽藍爺、章獻爺、四大將、註生娘々、婆者、神農聖帝、城隍爺、土地公、關帝君、雷神、電母

創立 不詳
信徒 三千二百人
例祭 舊曆一月十五日、二月十九日、七月四日、十一月冬至日
管理人 竹子脚 翁主德
財產 祠廟敷地○甲二五七六、畑一甲一三五九、田一甲〇六一〇

沿革 本廟創立緣起一切不明、其後明治三十九年の大地震に廟宇倒潰したれば時の保正何士芳、翁主德、何起、何木、王淋、何象等發起にて當部落外五部落の住民より寄附金千五百圓を募集し明治四十一年再築せりと

穰仔王

所在 民雄庄菁埔

教別 儒教
祭神 穰仔王、福德爺、神農聖帝
創立 約百年前
信徒 千二百三十人
例祭 舊曆二月廿一日、二月廿二日、十月不定日
管理人 缺員
財產 祠廟敷地○甲一四三〇

沿革 往時今より約百年前當部落の某

が其の子の死體を穰仔樹の下に埋めんとしにるに鋏を忘れ來りたれば死體を置いて鋏を取りに歸りたる間に子供は蘇生せり斯くて其夜其父は夢に穰仔王の姿現はれ建廟の神託ありたれば直ちに本廟を建立せりと云ふも年代其他不審の點少なからず其後明治三十九年の地震に廟宇倒潰したれば何世忠何繼盛發起して庄内より寄附金百圓を集め大正二年再築せりと

廣濟宮

所在 民雄庄牛斗山

教別 儒教
祭神 池王爺、土地公、土地婆、陳元帥、五谷王、保生大帝、太子爺、媽祖、石規寄

創立 同治十年
信徒 四百人
例祭 舊曆三月廿三日、七月三十日
管理人 牛斗山 郭深海
同 鄭慧
財產 祠廟敷地○甲五三七三

沿革 同治十年十一月郭植葦、郭植梅郭植華等の斡旋に依つて創立されたりと云ふも其他の事は不明なり其後明治三十九年の地震に廟宇倒潰せしかば郭深海、鄭慧發起して當庄より寄附金三千九百餘圓を集め明治四十四年之を改築せりと

廣安宮

所在 民雄庄江厝店

教別 儒教

祭神 三山國王、五谷王
 創立 不詳
 信徒 二百名
 例祭 舊曆二月廿五日、四月廿六日
 管理人 江厩店 鐘 昆
 財產 祠廟敷地○甲○九○五、建物敷地○甲二○五○、原野○甲九七五五

沿革 本廟の創立關係事項一切不明なり、只だ明治三十九年の大震災に倒潰したれば劉猪發起人となり當庄より金六百餘圓を募集し改築せる事だけは明諒なるが如し

順天宮

所在 民雄庄田中央

教別 儒教
 祭神 池府王爺、王爺、手下將、保生大帝、太子爺、開臺王、土地公、張王爺、康、趙二元帥、虎爺、石觀音
 創立 道光年間
 信徒 二百人
 例祭 舊曆一月十八日、十一月三十日
 管理人 田中央 劉 送
 財產 祠廟敷地○甲一八五一、田○甲九〇九〇

沿革 本廟は當地の王天來、劉海の幹旋にて道光年間に創立されたるもの其後明治三十九年の大地震に倒潰せるを以て何在其、魏庭、劉智等發起して同庄より寄附金八百圓を募り明治四十一年改築したりと

廣興宮

所在 民雄庄牛稠溪

教別 儒教
 祭神 玄天上帝、手下將、觀音佛祖、土地公、保生大帝、開帝爺、開臺王、五谷王、土地婆、太子爺、虎爺
 創立 咸豐六年
 信徒 二百人
 例祭 舊曆三月三日

管理人 牛稠溪 張國智
 財產 祠廟敷地○甲二三三五

沿革 本廟は同地の熊家埤なる者が發起して庄内より三百餘圓の寄附を募集し咸豐六年一月創立せしものなるが之れ又た三十九年の震災に倒れたれば同地の張傳秀發起して寄附金五百餘圓を募り明治四十二年再興落成せりと

觀音媽廟

所在 民雄庄鴨母空

教別 佛教及儒教
 祭神 觀音媽、福德爺、玄天上帝、四將爺、太子爺
 創立 不詳
 信徒 三百人
 例祭 舊曆三月三日、九月十九日
 管理人 鴨母空 盧 添
 財產 祠廟敷地○甲一一九五

沿革 創立不明、明治三十九年の地震に倒壊、盧鶴發起して同部落より寄附四百圓を募り四十二年再築擴張せりと

土地公廟

所在 民雄庄崙子頂

教別 儒教
 祭神 土地公
 創立 不詳
 信徒 六十人
 例祭 舊曆二月二日、八月十五日
 管理人及爐主 崙子頂 劉 畔
 財產 畑一甲四三七〇、田一甲三九三〇

沿革 創立改修築其他一切不明

將蒙

所在 民雄庄崙子頂

教別 儒教
 祭神 將爺公
 創立 不詳
 信徒 四百人
 例祭 舊曆十一月十四日

沿革 主 嵩子頂 洪 葛
 沿革 創立當時の状況は一切不明なり
 然るに明治三十九年の震災に廟宇全部倒
 潰したれば同地の劉廷猷發起して關係部
 落の有志と謀り工費四百三十餘圓を募集
 して明治四十年改築落成せりと

大帝廟

所在 民雄庄好收

教 別 儒教
 祭 神 大帝爺、玄天上帝
 創 立 不詳
 信 徒 百二十八人
 例 祭 曆舊三月十五日、十二月末日
 管理 人 好收 周 質
 財 産 建物敷地○甲○四八〇

沿革 創立に關する事は一切不明なり
 其後廟宇漸次荒廢に瀕したれば周質、周
 象の兩名發起にて庄内より寄附金百二十
 餘圓を募り明治二十五年頃改築せりと

五谷王廟

所在 民雄庄好收

教 別 儒教
 祭 神 五谷王
 創 立 約三百年前
 信 徒 四百人
 例 祭 舊曆四月廿六日
 管理 人 好收 陳 質 華
 同 同 李 判 枝
 財 産 祠廟敷地○甲○八九〇、建物敷地○
 甲○七二五、畑一甲八九二五、原野四
 五甲三〇五五、墓地四四甲三四三五

沿革 今より凡そ二百年前鐘某が當地
 に移住せる時農産の豊穰を祈る爲め建立
 したるものなりと稱するも確かならず其
 後明治三十九年の震災に廟宇潰滅せしか
 ば同地陳質華なる者發起して陳厝寮好收
 の兩部落より金千三百餘圓を募り之を改
 築せりと尙ほ合祀せる太子爺は個人の宅

に王爺は王爺廟に土地公は土地公廟に奉
 祀しありたるも何れも地震に倒潰したれ
 ば此處に合祀せしものなりと

土地公廟

所在 民雄庄好收

教 別 儒教
 祭 神 土地公
 創 立 不詳
 信 徒 四十人
 例 祭 舊曆八月十五日
 管理 人 好收 郭 以 友

沿革 當庄は山脚に在るを以て降雨あ
 る毎に雨水部落内に溢れ水害に苦しめら
 るゝを以て庄民協議の上本廟を建立せり
 と云ふも其時代及關係者等詳かならず尙
 は其後郭以友が庄内有志と謀り改築せり
 と云ふも夫れも詳細不明なり

池府王爺廟

所在 民雄庄頭橋

教 別 儒教
 祭 神 池府王爺、媽祖、城隍爺、太子爺
 創 立 不詳
 例 祭 舊曆三月廿三日、六月十六日
 信 徒 三百人
 管理 人 頭橋 黃 岸
 財 産 田○甲六八八〇

沿革 創立の緣起其他當時の事情詳か
 ならず、其後明治四十年縦貫鐵道布設の
 爲め取毀されたるが庄の有志蔡祿、蕭旺
 樹發起人となり寄附金百二十圓を募集し
 て現在の位置に改築せり

玄天上帝廟

所在 民雄庄松子脚

教 別 儒教
 祭 神 玄天上帝、觀音佛祖、太子爺、元帥
 爺、土地公
 創 立 道光二十五年

信 徒 二百人
 例 祭 舊曆三月三日
 管理人 松子脚二八三 盧石詳
 財 產 祠廟敷地○甲五七六○
 沿革||本廟は道光二十八年何兩儀、周道、曾烈の發起にて創立されたりと云ふのみにて其他の事情不詳、其後明治三十九年の大震災に當り廟宇倒潰せるを以て有志何芳庄民と協議の上六百三十圓の寄附金を得て明治四十二年二月改築落成せりと

玄天上帝廟

所在 民雄庄林子尾

教 別 儒教
 祭 神 玄天上帝、觀音佛祖、土地公
 創 立 不詳
 信 徒 四百二十人
 例 祭 舊曆三月三日
 廟 主 林子尾 蕭木成
 財 產 建物敷地○甲二八〇〇

沿革||創立縁起及其後の改修築の模様等一切不明

土地公廟

所在 民雄庄葉子寮

教 別 儒教
 祭 神 土地公
 創 立 不詳
 信 徒 三十人
 例 祭 舊曆八月十五日
 管理人及爐主 葉子寮 王 景
 財 產 畑○甲〇五三五、山林○甲六六七〇
 沿革||創立縁起其他改修築等一切不明

保生大帝廟

所在 民雄庄北勢子

教 別 儒教
 祭 神 保生大帝、五谷王、王爺、土地公
 創 立 不詳
 信 徒 三百三十人

例 祭 舊曆五月五日
 爐 主 北勢子 賴志經
 財 產 建物敷地○甲一三三〇
 沿革||本廟は道光己亥年創立せりと云ふのみにて創立縁起其他不明なり其後賴孟延頼得成、詹明定等發起し庄内より寄附金二百五十餘圓を募り改築せりと云ふも年代不明、次で明治三十九年の地震に大破したれば鄭茂盛、頼粥臣、謝臨現、頼賢武等發起して寄附金四百七十餘圓を募りて修繕せりと

大使爺廟

所在 民雄庄北勢子

教 別 儒教
 祭 神 大使爺公、觀音媽、直樹王、郭聖王、太子爺、土地公
 創 立 不詳
 信 徒 二百二十五人
 例 祭 舊曆五月五日
 爐 主 北勢子 張生發

沿革||本廟の創立縁起其他創立當時の事情不明なり其後明治四十二年黄元發起人となり庄民より寄附金を募り修繕を加へたり地震の爲大破せし爲めなるべし

福德爺廟

所在 新巷庄西庄

教 別 儒教
 祭 神 福德爺、保生大帝、開路王、三官大帝
 創 立 不詳
 信 徒 七百二十五人
 例 祭 舊曆一月十六日、三月十五日、九月十日、十一月不定日
 管理人及爐主 西庄 何 巷
 同 何 宋
 財 產 祠廟敷地○甲三七五〇、池沼二一甲五二三一

沿革||創立は何時頃なりしや不明なるも廟宇は極めて粗雑の者なりしが明治三十八年何思成なる者之を改築せり然るに

大正元年九月の暴風雨に大破せしを以て其翌年何宋發起して寄附金百四十圓を集め大修繕を加へたりと

土地公廟

所在 新巷庄海豐子

教別 儒教
祭神 土地公
創立 不詳
信徒 百人
例祭 舊曆八月十五日
管理人 缺員

沿革 創立の時代不明にして殘存せるは粗雜の一小祠なりしが明治三十九年の地震に破潰せられたるを以て同四十年何以、何東、何栓の發起にて庄内より寄附を集め之を改築せりと

土地公廟

所在 新巷庄海豐子

教別 儒教
祭神 土地公
創立 明治四十年
信徒 八十人
例祭 舊曆八月十五日
管理人 缺員
財產 建物敷地○甲一八二五、池沼○甲四四二〇

沿革 明治四十年郭前主唱して一小祠を建て、祀る其工費七八十圓は庄民の寄附に據りたるものにて林知胚、楊網も此の建立に參與せりと

奉天宮

所在 新巷庄新巷

教別 儒教
祭神 媽祖、太監、千里眼、虎爺、太子爺、觀音、善才、良女、神農聖帝、三官大帝、三寶佛、加葉仙、釋迦牟尼佛、彌勒、光仙、韋馱天尊、十八羅漢、

創立 不詳
信徒 四十五萬人
例祭 舊曆三月廿三日、九月九日
管理人 新巷 林溪和
財產 祠廟敷地○甲一八〇〇、畑○甲二八二〇

沿革 嘉慶十五年當街民が舊南港（元笨港）より當地に移住の際舊南港（元笨港）に奉祀しありたる媽祖の神體三體中の一體を當地に移し廟宇を建立して奉祀せり然るに明治三十七年より三十九年に亘り兩度の大地震に廟宇破壊せしを以て一般信徒より金二百圓を募集し明治四十二年九月改築せり發起者は林添有、林關基、何銘錐、林維朝、洪炳、陳壁如、林溪如等なりしと

大興宮

所在 新巷庄新巷

教別 儒教
祭神 保生大帝、巨趙、家臣、福德正神、虎將軍
創立 乾隆年間
信徒 三百人
例祭 舊曆三月十五日
管理人 新巷 楊泉
財產 祠廟敷地○甲六〇〇、畑一甲二四八五

沿革 創立緣起詳かならざるも乾隆年間住民の醴金に依り創立されたるものならんと云ふ、其後明治三十九年の地震に堂宇破壊せるを以て林維朝、林添有、何銘錐主唱して五百餘圓の寄附を募り明治四十年改築完工せりと

西安堂

所在 新巷庄新巷

教別 儒教
祭神 福德正神、同家來、伽藍爺

創立 嘉慶十五年
 信徒 三百餘人
 例祭 舊曆二月二日、八月十五日、十月八日
 管理人 新巷 陳朝
 財產 祠廟敷地○甲○一六〇、池○甲九二〇五

沿革 嘉慶十五年頃街民一同の協議に依り創立せり、其後明治三十九年の地震に破壊したれば陳朝發起となり街の有志より百九十餘圓の寄附金を集め明治四十二年改築完成せりと

三山國王廟

所在 新巷庄後庄

教別 儒教
 祭神 三山國王、保生大帝、福德正神
 創立 不詳
 信徒 五十名
 例祭 舊曆二月廿五日、三月十五日
 管理人 後庄 郭馬
 財產 畑○甲二〇〇〇

沿革 創立年代不詳なるも傳説に依れば往時北港溪の上流より朽木三個流れ來りしを以て其一本にて三山國王の神像を刻み廟宇を建立して之を奉祀せりと云ふ其後明治三十七、九年の地震に廟宇全部倒壊したるを以て郭註、郭馬主唱して所屬財產約千圓を賣却し明治四十一年改築せりと

王爺廟

所在 新巷庄埠頭

教別 儒教
 祭神 水府王爺、土地公、太子爺
 創立 光緒十七年
 信徒 百餘人
 例祭 舊曆四月廿六日、十月十五日
 管理人及爐主 埠頭 洪 泉

沿革 當部落には往時より王爺の信者多く始めは紙に畫きたる畫像を貼りて祭祀を行ひ來りたるも光緒十七年何石頭の

發起にて寄附金三百圓を募り木像を刻み廟宇を建立して奉祀する事としたるものにて其後の狀況不詳

水月庵

所在 新巷庄埠頭

教別 佛教
 祭神 觀音佛祖、註生娘娘、閻羅太子
 創立 約三百年前
 信徒 一萬人
 例祭 舊曆正月八日、三月二十日
 管理人 甲内一〇二 陳 才

沿革 凡そ三百年前新港及北港の有志が當地の景勝を愛で廟宇を建て觀音を奉祀し廟前の潭に因んで水月庵と名付たるものにして明治三十九年の地震に破壊したれば信者の献金三百圓を以て之を改築せりと

水仙宮

所在 新巷庄舊南港

教別 儒教
 祭神 水仙尊王、藝通舟、穀善財、楚平、風大夫、管師區、伍盟補匠、關帝爺、關平、周倉、福德神
 創立 不詳
 信徒 百五十人
 例祭 舊曆五月十三日
 管理人及爐主 舊南巷 許 榮
 財產 田一甲二〇九三、畑七甲五九五一

沿革 創立の緣起詳かならざるも當初は庄の北方に在りしも北港溪の氾濫に依り年々廟の眞近くまで浸水を見るに至りたるより嘉慶年間當地の巨商金正順、金合順、金晉順等發起して現在の箇所に廟宇を移築し道光年間後殿を増築して關帝君を他の廟より遷祀せりと其費用は前後を通じて五千餘圓を要したりと

福德祠

所在 新巷庄舊南港

教 別 儒教
 祭 神 土地公
 創 立 嘉慶十三年
 信 徒 四十人
 例 祭 舊曆二月二日、八月十五日
 管理人 舊南港 許 紅
 財 産 畑〇甲三六八五

沿革 嘉慶十三年庄民協議の上庄の平安と農産の豊穰を祈願せん爲め共同醸金して廟宇を建立祭神を奉祀せしものにして當時陳智、楊金鍵は専ら其創立に盡瘁せり其後同治初年の地震に廟宇大破したるを以て光緒三年工費千餘圓を投じて大修繕を加へたりと

長 天 宮

所在 新巷庄板頭厝

教 別 儒教
 祭 神 媽祖、福德爺、五谷王
 創 立 不詳
 信 徒 三百人
 例 祭 舊曆三月二十日
 管理人及爐主、板頭厝 楊 蔭
 財 産 畑一甲五〇〇

沿革 創立縁起其他創立當時の狀況不明なり其後明治三十七年三十九年の大地震に廟宇大破せるを以て楊蔭、林旺、蘇帆等發起し特に楊蔭は自ら工費半額を負擔する事を約し殘額を庄内信徒より募集し明治四十年工費金四百圓を以て改築完成せり

福 德 堂

所在 新巷庄大潭

教 別 儒教
 祭 神 福德正神、太子宮、元帥爺、玄天上帝、關帝君、五谷王、三官大帝
 創 立 明治四十二年
 信 徒 二百人
 例 祭 舊曆三月十六日、八月十五日、九月九、十日

管理人 大潭 林 在

沿革 往時は廟宇も祭神の神像もなく只だ祭神の誕生日舊八月十五日に幕を張り假壇を設けて祭典のみを行ひ來りたるが明治四十二年林元昌、林在、林明裕、林親等發起となり庄民と協議の上寄附金四百圓を募り廟宇を建て神像を刻み明治四十三年三月創立完工せりと

三 山 國 王 廟

所在 新巷庄古民

教 別 儒教
 祭 神 三山國王、國王夫人、土地公
 創 立 嘉慶年間
 信 徒 九十人
 例 祭 舊曆二月廿五日、十一月二日
 管理人 古民 郭 潭

沿革 嘉慶年間當部落開拓の際住民の安寧幸福を祈らん爲め協議の上本廟を創立せり其後明治三十七、九兩年の大地震に廟宇大破せしかば陳得、郭潭、黃傳等發起して庄民の寄附九百圓所屬財産の賣却金六百圓併せて千五百圓を以て明治四十二年改築の工を起し翌年三月竣工せりと

永 祿 宮

所在 新巷庄古民

教 別 儒教
 祭 神 三山國王、同夫人、土地公
 創 立 不詳
 信 徒 二百人
 例 祭 舊曆二月廿五日
 管理人 古民 李 屎
 財 産 祠廟敷地〇甲四四〇四、池三甲〇二〇〇

沿革 創立縁起詳かならず、其後明治四十年李金、陳武、陳砥等發起して庄民より寄附三百圓、所屬財産より金三百圓

併せて六百圓を得改築せり之れ地震の爲め廟宇倒潰したる爲めなりと

王爺廟

所在 新巷庄崙子

教別 儒教
 祭神 池王爺、上帝爺、土地公、法主公
 創立 不詳
 信徒 二百五十人
 例祭 舊曆六月十八日
 管理人 崙子 王世
 財產 祠廟敷地○甲一八二五、建物敷地○甲一二九五、畑○甲八八八五

沿革||本廟の創立縁起詳かならざるも同廟奉獻の額面に依れば同治乙丑の年以前の創立なるが如く其後の改修築等も一切不明なり

池王廟

所在 新巷庄大崙

教別 儒教
 祭神 池王爺、李王爺、福德正神
 創立 百年前
 信徒 三十餘人
 例祭 舊曆一月十八日、四月廿六日、六月十八日
 管理人及爐主 大崙 馬山猪
 財產 畑一甲五〇八〇、田〇甲九七五〇

沿革||今より凡そ百年前神像を携へて當地に移住せるものが相謀つて廟宇を建立奉祀せるものにして明治三十九年の地震に大破したれば庄民より寄附を募り百餘圓を得明治四十五年三月修繕せるものなりと

安和宮

所在 新巷庄番婆

教別 儒教
 祭神 媽祖、開璋聖王
 創立 嘉慶年間

信徒 三百人
 例祭 舊曆三月廿三日
 管理人 番婆 郭通盛
 財產 祠廟敷地○甲〇九七〇

沿革||嘉慶年間牛稠溪出水の際流水漂着せるを以て之れにて庄民協議の上媽祖の神像を刻み廟宇を建て之を奉祀せる者なり、其後咸豐年間郭大山、郭闖、江文正、莊捷雍等發起して修築せりと云ふも詳細不明なり、其後明治三十九年地震の爲め破損せしかば郭金盤、郭通盛、郭寬容、莊謀主唱となり庄民の醸金千五百三十圓を募りて明治四十年改築せりと

三官大帝廟

所在 新巷庄大客

教別 道教
 祭神 三官大帝、土地公
 創立 乾隆三十八年
 信徒 七十人
 例祭 舊曆七月十五日、十月十五日
 管理人 大客 阮余取
 同 阮信
 財產 祠廟敷地○甲二六八〇、田〇甲四五五〇、畑〇甲二七二五

沿革||本廟は乾隆三十八年黃定茂、江弼萬等の發起にて大客、茶公厝、潭仔墘の三部落より金一千圓の寄附を募りて創立せるものにして當時發起人等も其財產の一部を本廟に寄附せり然るに其後明治三十九年の震災にて廟宇潰滅したるも部落疲弊して未だ再興に至らずと

公太廟

所在 新巷庄潭子墘

教別 儒教
 祭神 江氏頭鄉、土地公、媽祖、五谷王、北極上帝
 創立 明治三十九年
 信徒 六十人

例 祭 舊曆一月十五日、十月廿一日
 管理人及爐主 潭子墩 江 喜
 沿革 創立縁起及其當時の状況一切不明なり本廟は元永福宮と稱せしが明治三十九年の震災に罹り廟宇倒潰したるより現在の民家（舊警察官派出所事務室の一室）を借り受け同廟祭神の外土地公、媽祖、五谷王、北極大帝等を配祀したるに其後一般に永福宮と稱せず公太子廟と稱するに至れりと

六 興 宮

所在 新巷庄溪北

教 別 儒 教
 祭 神 媽祖、司令灶君、土地公
 創 立 道光六年
 信 徒 六百五十人
 例 祭 舊曆三月廿三日、七月二十日
 管理人及爐主 溪北 黃 宗 張
 財 產 祠廟數地○甲二五三〇

沿革 道光六年王得祿所在六部落の人民と謀り新巷の媽祖二體の内一體を勸請し廟宇を建立して奉祀せしが明治三十九年の震災に倒壊せしを以て李烏沙、楊古王振良、王振德等發起にて寄附募集を出願し郭余盤外十數名にて募集に着手し明治四十五年再興に着手したるも工事遅々として進まず數年の後漸く現在廟宇を完成せりと

上 帝 爺 廟

所在 新巷庄溪北

教 別 儒 教
 祭 神 上帝爺、太子爺
 創 立 不詳
 信 徒 四百人
 例 祭 舊曆三月三日
 管理人 溪北 李 烏 沙
 財 產 祠廟數地○甲一一四五

沿革 創立縁起等一切不明なり、然る

に明治三十九年の震災に倒潰したれば李烏沙、李匏、黃宗張、楊古等發起にて庄民より金百圓を募り明治四十二年現廟宇の如く改築せりと

敵 天 大 帝 廟

所在 新巷庄月眉潭

教 別 儒 教
 祭 神 敵天大帝、謝元帥、神農聖帝、開臺聖王
 創 立 乾隆三年
 信 徒 三百五十人
 例 祭 舊曆八月廿五日
 管理人及爐主 月眉潭 林 抄
 財 產 數地○甲二三六五、畑五甲九九〇五
 池沼○甲三〇〇五

沿革 乾隆三年林如玉なる者本島へ移住の際林姓の祖先敵天大帝を奉じ來り林清江、林乾恩、林開元、林洪陽、林芳輝、林坤木等と謀り廟宇を建立して奉祀したるものにして其後咸豐八年林洪陽、林芳輝等發起にて信徒の醴金百六十圓を以て修繕を加へたる事あり然るに明治三十九年の震災に廟宇倒壊せしを以て林坤木、林茂源、林礎等發起して信徒の寄附金八百餘圓を集め翌四十年改築竣工せりと

元 帥 爺 廟

所在 新巷庄月眉潭

教 別 儒 教
 祭 神 陳元帥、仙公爺、池王爺、土地公
 創 立 乾隆二年
 信 徒 九十人
 例 祭 舊曆十一月廿五日
 管理人及爐主 月眉潭五〇六 李 山 和
 財 產 祠廟數地○甲二三二〇

沿革 乾隆二年李某支那より移任の際謝元帥の神像を携へ來り堂宇を建て、奉祀せるに創まる、配祀の仙公爺は當庄の榕樹風の爲めに倒れたるより之を以て神

像を刻みて祀り土地公は當庄の福德爺廟に祀られたるものを其堂宇倒壊したるより本廟に遷祀せるものなり本廟も明治三十九年の地震に大破せしが李盛發主唱して庄内より百餘圓の醸金を集め明治四十五年改築完工せるものなりと

紫雲亭

所在 新巷庄菜公厝

教別 佛教
祭神 觀音佛祖、善才、良女、靈聖公、土地公、五谷王
創立 同治年間
信徒 二百五十人
例祭 舊曆六月十九日、九月十二日
管理人及爐主 菜公厝 陳 尼
財產 祠廟敷地○甲○七六四

沿革 本廟は同治年間李知母なる者の創立に係ると稱せらるゝも詳細不明なり明治三十九年地震の爲め廟宇倒潰せしを以て陳尾主唱して庄内より醸金百二十圓を募り明治四十四年之を改築せりと

永興宮

所在 新巷庄中洋子

教別 儒教
祭神 保生大帝、開璋聖王、土地公、土地婆、太子爺
創立 約二百年前
信徒 二百人
例祭 舊曆三月十五日、七月十五日
管理人 中洋庄 巫 誦
財產 祠廟敷地○甲一三〇〇、田○甲〇四三一、畑○甲一六〇五、原野一甲三九五

沿革 本廟祭神は約二百年前當庄民が移住の時故郷より奉じ來りたるもの其後庄民協議の上小宇を建て之を祀れり然るに明治三十九年震災の爲め倒潰したれば三間厝の何那主唱となり三間厝、中洋子、

後厝子等の部落より寄附金を募り明治四十年改築せりと

玄天上帝廟

所在 新巷庄三間厝

教別 儒教
祭神 玄天上帝、太子爺、大道公、池王爺
創立 約百五十年前
信徒 二百五十人
例祭 舊曆三月三日
管理人 二間厝 劉 章
財產 祠廟敷地○甲一二一〇

沿革 本廟祭神は今より約百五十年前三間厝の蕭某漳洲より移住の際携へ來り自宅に奉祀し置きたるが其後牛斗山の郭族海なる者が蕭の遺族と協力して信徒より二百圓の喜捨を集め廟宇を建立奉祀せり其後明治三十九年の震災に廟宇倒壊して未だ再興に至らずと

北極殿

所在 溪口庄溪口

教別 儒教
祭神 玄天上帝、五谷王
創立 乾隆三年
信徒 七百六十人
例祭 舊曆一月十五日、三月三日
管理人 溪口 張進文
財產 田一甲二六〇五、池沼○甲一二七〇

沿革 本廟は乾隆三年の創立にして初め極めて粗末なる茅葺の一小祠なりしも靈顯著しきものあるより双溪口外四部落の住民協議の上改築せり其年次不詳なり其後明治三十八年の地震に破損せしを以て有志發起して双溪口、頂坪、上崙、柴林脚の四部落より醸金一千八百圓を募りて明治四十一年改築せりと

朝陽宮

所在 溪口庄溪口

教 別 儒教
 祭 神 土地公
 創 立 嘉慶二十一年
 信 徒 五百七十人
 例 祭 舊曆八月十五日
 管理人 溪口 張 瓦

沿革||單に嘉慶二十一年の創立なりと云ふのみにて當時の状況一切不明なり其後明治四十一年同地張姓の者が共同祭費の中より七十餘圓を出资して改築せりと云ふ多分明治三十九年の大地震に倒潰せしものならん

永樂宮

所在 溪口庄溪口

教 別 儒教
 祭 神 土地公、土地婆
 創 立 慶應三年
 信 徒 五百七十人
 例 祭 舊曆八月十五日
 管理人 溪口 張 石珠
 財 産 祠廟敷地○甲○四七五

沿革||創立當時の事情詳かならず其後も改修築を加へたる事なきが如し

三山國王廟

所在 溪口庄溪口

教 別 儒教
 祭 神 三山國王、土地公、觀音佛祖
 創 立 道光十六年
 信 徒 三百人
 例 祭 舊曆一月十五日、二月廿五日
 管理人 溪口 游 徳旺
 財 産 畑○甲四一八五、池沼○甲一五〇七

沿革||創立縁起其他一切不明、其後明治三十一年の大洪水に倒潰せしを以て廟所屬財産より出資二百圓を以て明治四十年改築せり

萬善同歸

所在 溪口庄溪口

教 別 儒教
 祭 神 無縁者の靈を祀る萬善同歸の石牌
 創 立 不詳
 信 徒 特定のものなし
 例 祭 舊曆正月二日に少數の參詣者あるか如し
 管理人 なし

沿革||創立の時代縁起等一切不明、其後明治三十一年の暴風雨に破損せしかば同地張姓の組織せる中元會より工費三十圓を支出して明治三十二年修繕を加へたりと

土地公廟

所在 溪口庄上崙

教 別 儒教
 祭 神 土地公、土地婆、五谷王
 創 立 不詳
 信 徒 二百五十人
 例 祭 舊曆八月十五日
 管理人 上崙 賴 火
 財 産 田○甲一六七〇

沿革||創立の縁起其他一切不明なり其後今より百十年前に修繕を加へたる事ありと稱するも夫れすら詳細を知るものなく此修繕の費用は三十四圓内外にて庄民の寄附に據れりと云ふのみ

福德爺廟

所在 溪口庄崙尾

教 別 儒教
 祭 神 土地公
 創 立 約二百年前
 信 徒 百八十五人
 例 祭 舊曆八月十五日
 管理人 崙尾 張 隆興
 財 産 祠廟敷地○甲○三四〇、田○甲一九九〇

沿革||創立當時の事は一切不明、其後明治三十八年の地震に倒壊せるを以て所屬財産を賣却して六十五圓を得別に寄附

金二百圓を募り二百六十五圓を以て明治四十一年改築せりと

大帝君

所在 溪口庄本廳

教別 儒教

祭神 保生大帝、觀音佛祖、玄天上帝、太子爺、五谷王、土地公

創立 不詳

信徒 四百七十人

例祭 舊曆三月十五日

管理人 本廳 葉焜

財產 祠廟數地〇甲二三〇五

沿革 創立の縁起其他當時の事情一切不明なり、其後明治三十八年の地震に廟宇倒潰したれば有志の發起にて本廳、崙屋、厝子、番仔、海豐、南靖の各部落より寄附金千三十餘圓を募りて明治四十年再興せり此再興に關與して盡力せるは何科、楊山、何右魁、曾典、郭前、賴來、莊意、陳隆興、何木、何遊桃、何庚、陳劍邱、蔡乞食等なり

土地公廟

所在 溪口庄本廳

教別 儒教

祭神 福德爺

創立 嘉慶二十一年

信徒 九十八人

例祭 舊曆一定の祭日なし

管理人 缺員

沿革 創立、改修築等一切不明

德和堂

所在 溪口庄本廳

教別 齋教 (龍華派)

祭神 釋迦佛、觀音佛祖、玉皇上帝、孔子、灶君、福德爺、城隍爺、彌勒、太陽

創立 道光丁未年

信徒 九十五人

例祭 舊曆一月九日、三月、六月、九月各十九日、十二月八日

管理人 本廳 李周興

財產 田二甲四〇二五、畑三甲〇四三〇

沿革 初め臺南德化堂の僧此地に來りて布教し相當の信者を得て本堂を創立せり其費用は無論信者の寄附に據りたるものなるが實際別に基本財産として田地をも購入せりと云ふ然るに明治三十一年の大暴風に廟宇大破せしを以て有志發起して信徒より寄附金五百八十餘圓を募り明治三十二年修繕竣工せりと

太陽廟

所在 溪口庄三疊溪

教別 儒教

祭神 太陽公

創立 道光丙寅年

信徒 五百人

例祭 舊曆三月十日

管理人 三疊溪 劉弄毛

沿革 道光丙寅年部落の有志玉皇上帝の神慮を窺ひ本廟を創設せるが明治三十八年の地震の爲め倒壊したれば劉秋、劉昌等主唱して部落民より寄附金を募り明治四十四年改築せりと

太陰廟

所在 溪口庄三疊溪

教別 儒教

祭神 太陰娘

創立 道光丙寅年

信徒 五百人

例祭 舊曆三月十九日

管理人 缺員

沿革 道光丙寅年玉皇上帝に伺ひ神託を得て本廟を創立したるが明治三十八年の震災に倒壊したれば部内の有志相謀つて寄附金を集め明治四十四年改築竣工せりと

天 臺 宮

所在 溪口庄三疊溪

教 別 儒教
 祭 神 玉皇上帝、福德正神、觀音佛祖、三山國王、保生大帝、玄天上帝、三界公
 創 立 道光丙寅年
 信 徒 五百人
 例 祭 舊曆一月九日
 管理人 三疊溪 劉弄毛

沿革 道光丙寅年の創立なりと云ふも當時の狀況不詳、其後明治三十八年の震災に廟宇倒壊したれば劉秋、劉旺の兩名發起して七百餘圓の寄附金を集め明治四十四年改築せりと

永 興 宮

所在 溪口庄柳子溝

教 別 儒教
 祭 神 五谷王、司命灶君、福德爺
 創 立 不詳
 信 徒 二百人
 例 祭 舊曆八月十五日
 管理人 柳子溝 賴火添
 財 産 田〇甲三五五五

沿革 本廟は創立、改築、修築等一切不明

安 興 宮

所在 溪口庄柳子溝

教 別 儒教
 祭 神 媽祖、千里眼、順風耳、土地公、上帝爺、觀音佛、騎虎王、土地婆
 創 立 道光甲午年
 信 徒 二百五十人
 例 祭 舊曆三月廿一日、廿二日、廿三日
 管理人及爐主 柳子溝 莊 鐵 外三名
 財 産 畑一甲〇七一五

沿革 本廟の創立縁起及當時の狀況は殆んど不明なり、然るに明治三十八年の

震災に廟宇大破せしかば莊爵、莊鐵、莊漏等發起して寄附金三百二十圓を募り明治三十九年大修繕を加へたりと

慈 濟 宮

所在 溪口庄游厝

教 別 儒教
 祭 神 保生大帝、韓文公、子孫娘々
 創 立 嘉慶癸巳年
 信 徒 五百人
 例 祭 舊曆三月十五日
 管理人及爐主 游厝四〇四 游 記
 財 産 祠廟敷地〇甲三九四五

沿革 本廟の祭神は當地游姓の者が廣東より分香し來り自宅に奉祀せるに靈顯著しきものありとて游姓の者集りて嘉慶癸巳年廟宇を建て神像を刻みて奉祀せり其後光緒甲申年當部落の者廟宇の廢頽せるを遺憾とし劉見俊、曾勇觀、張文騫等發起人となり寄附金三百五十圓を集めて之を修築せりと

福 立 宮

所在 溪口庄柴林脚

教 別 儒教
 祭 神 福德爺、池王爺、太子爺、金玉爺、玄天上帝
 創 立 不詳
 信 徒 千餘人
 例 祭 舊曆一月九日、三月三日、四月八日、六月十八日
 顯 廟 柴林脚 郭和尙

沿革 創立縁起等之れを知る者なし只だ本廟の匾額に「同治癸酉年本庄衆弟子立」の文字あるものあれば恐らく其前後に創立されたるものなるべし斯くて明治三十九年の大地震に廟宇大破したるを以て徐憤、王芳、陳喜等發起して柴林脚より金三百圓を醴集し明治四十一年之を修覆せりと

元帥爺廟

所在 大林庄潭底

教別 儒教
 祭神 元帥爺、同部下、王爺、關羽、土地公
 創立 三十餘年前
 信徒 二百五十人
 例祭 舊曆九月九日
 管理人及爐主 中林 樊振福
 財產 ○甲六七九〇

沿革 本廟は今より約三十年前當地の薛萬興なる者が所在有志より金百圓を集め創建せる者なるも詳細を知る者なし

開漳聖王廟

所在 大林庄中林

教別 儒教
 祭神 開漳聖王、輔義將軍、輔信將軍
 創立 約九十年前
 信徒 百餘人
 例祭 舊曆一定せず
 管理人 缺員

沿革 本廟は最初漳洲より當地に移住せる陳姓の者が協議の上祖廟を建立し開漳聖王を奉祀せる者にして其建立には陳老なる者特に斡旋の勞を執れりと

福德爺廟

所在 大林庄中林

教別 儒教
 祭神 土地公、土地婆、五谷王、松樹王、三山國王、鄭成功、關羽
 創立 約八十年前
 信徒 百五十人
 例祭 舊曆八月十五日
 管理人 中林 江 乞
 財產 建物敷地○甲六〇〇

沿革 本廟は今より約八十年前此地に守護神なきを遺憾とし有志協議の上蔡達林五湖發起人となり百餘圓の醸金を以て創立せるものなるが明治三十九年の地震

に廟宇倒壊したれば江乞發起者となり信徒より百三十餘圓を集め其年改築せりと

福德爺廟

所在 大林庄中林

教別 儒教
 祭神 土地公、土地婆
 創立 約百年前
 信徒 百五十人
 例祭 舊曆八月十五日
 管理人 缺員
 財產 建物敷地○甲三五〇〇

沿革 本廟は今より約百年ばかり前當部落の有志が協議の上醸金百圓餘を投じて創立せる者と云ふも詳細不明なり

福德爺廟

所在 大林庄頂員林

教別 儒教
 祭神 土地公、同兵將
 創立 大正元年
 信徒 約百人
 例祭 舊曆八月十五日
 管理人 頂員林 許佳聚
 財產 祠廟敷地○甲〇〇二〇

沿革 大正元年部落の守護神として許佳尿の發起にて部落民より寄附金二十餘圓を集めて創立せるものにて其他の事情不明なり

泰安宮

所在 大林庄大埔美

教別 儒教
 祭神 天上聖母、千里眼、順風耳、觀音菩薩
 創立 約二百年前
 信徒 一萬人
 例祭 舊曆三月廿三日
 管理人 大埔美 簡 厚
 財產 祠廟敷地○甲二三七〇

沿革 當地の近郷近在に北港媽祖を信仰する者多く夫等の者が會合協議して醸

金千圓を得北港媽祖より分香し來り本廟を創立し神像を刻みて奉祀せる者にて其年代は今より二百年ばかり前なりと云ふ其後同治初年の地震に廟宇倒潰したれば簡代進、簡進奎、簡八政、簡老彭、簡連厦等發起して寄附金千餘圓を集め之を改築したるが更に明治三十九年の地震に倒潰したれば張李走、簡清陣の發起にて住民より寄附を募り九百九十八圓を得三年を費して改築せりと

福德爺廟

所在 大林庄大埔美

教別 儒教
祭神 福德爺
創立 不詳
信徒 百人
例祭 舊曆二月二日、八月十五日
管理人 大埔美 曾賢
財產 祠廟敷地○甲三五〇〇

沿革 本廟の創立に就いては何等傳ふる處なし、其後明治三十九年の地震に大破し且つ連年暴風雨に逢ひ廟宇著しく荒廢したれば簡象、鄭卿の兩人協力して材料を持ち寄り幾分の資金と努力を擲つて明治四十四年之を修覆せりと

福德爺廟

所在 大林庄林子前

教別 儒教
祭神 土地公、騎虎王
創立 約六十年前
信徒 三十人
例祭 舊曆八月十五日
管理人 林子前 賴馨

沿革 今より約六十年前同部落民協議の上頼常發起人となり寄附金百圓を集めて本廟を創立したるが其後風水害震災等に遭ふて廟宇甚だしく荒廢したれば明治

四十五年頼營發起人となり在住者の寄附を募り改築を行へりと

觀音廟

所在 大林庄林子前

教別 佛教
祭神 觀音菩薩、保生大帝、帝爺、關羽、土地公、土地婆
創立 不詳
信徒 百人
例祭 舊曆二月九日
管理人 林子前 江頭
財產 建物敷地○甲〇一〇〇

沿革 本廟の創立に就いては何等傳ふる處なし其後明治三十九年の震災に廟宇倒潰したるを以て當時の書房へ移轉せり之れ現在の廟宇にして以前の廟址は他人の祖廟となり居れりと

福德爺廟

所在 大林庄林子前

教別 儒教
祭神 土地公、土地婆、大王公、二王公、三王公、關羽、帝爺、七星公、茄荖王、灶君、媽祖
創立 約百年前
信徒 百人
例祭 舊曆八月十五日
管理人 林子前 許和尚
財產 祠廟敷地○甲〇四三〇

沿革 本廟は今より百年前庄民協議の上創立せりと云ふのみにて其當時の情況不明なり然るに明治三十八九年の候震災風水害連年打ち續き廟宇大破せるを以て許達の盡力に依り信徒より僅少の寄附を募り之を改築せりと

大帝爺廟

所在 大林庄中坑

教別 儒教

祭神 大帝爺、家來、土地公
 創立 約百年前
 信徒 五十九人
 例祭 舊曆三月三日
 管理人 中坑 李其財
 財產 祠廟敷地○甲五〇〇

沿革 本廟創立緣起其他不明、其後大破したれば倪黨發起して信者より材料勞力の寄附を仰ぎ大正三年改築せり

福德爺廟

所在 大林庄中坑

教別 儒教
 祭神 土地公、同家來、土地婆
 創立 大正元年
 信徒 百三十人
 例祭 舊曆八月十五日
 管理人 中坑 鄭清義
 財產 建物敷地○甲〇〇二〇

沿革 本廟の祭神は元中坑の天公壇に配祀しありしが一部庄民より參拜に不便なりとの異議起りたれば鄭清義發起人となり大正元年現在の地に廟宇を建て祭神を遷祀せりと

天公壇

所在 大林庄中坑

教別 儒教
 祭神 天公、馬府王爺、清水祖師
 創立 約二百年前
 信徒 百三十人
 例祭 舊曆六月十八日
 管理人 中坑 鄭清義
 財產 祠廟敷地○甲二六七〇

沿革 本廟は今より約二百年前土地の守護神として庄民協議の上廟宇を建立奉祀せる者なるが其廟宇も自然荒廢したれば庄民協力して材料勞力を寄附し明治三十九年末改築せる者なりと

大道公廟

所在 大林庄中坑

教別 儒教
 祭神 大道公、康元帥、趙元帥、土地公
 創立 約二百年前
 信徒 三百人
 例祭 舊曆三月十五日
 管理人 中坑 劉蘭
 財產 建物敷地○甲一四五五

沿革 本廟は今より約二百年前土地の守護神として部落民協議の上臺斗坑の大道公廟より分香し來り廟宇を建立して奉祀したるもの次いで今より約百年前附近住民より寄附金千圓を募り改築し更に明治三十二年部内有志より金二百圓を集め大修繕を加へたりと云ふ關係者等詳かならず

開漳聖王廟

所在 大林庄大林

教別 儒教
 祭神 開漳聖王、同夫人、土地公、李爺、監南爺、司命灶君、關羽、山神、呂太子、開臺尊王
 創立 同治七年
 信徒 百五十人
 例祭 舊曆二月十五日
 管理人及爐主 大林 陳老虱
 財產 祠廟敷地○甲三二二〇

沿革 本廟は同治六年當地方の漳州人有志黃光金、陳安瀾、黃德美、陳安邦の四人が發起して五千餘圓の寄附を募集して創立せる者にて其後明治四十一年薛果堂發起にて又二百圓を募り大修繕を行ひたるが震災の爲め大破損を蒙りたる爲めなりと尙ほ創立の際薛大有は寄附金三百圓の外廟の敷地を寄附せりと

觀音廟

所在 大林庄大林

教 別 齋 教 (龍華派)
 祭 神 觀音菩薩、呂夫子
 創 立 明治五年
 信 徒 十五人
 例 祭 舊曆二月十九日、六月十九日、十一月十九日
 管理人 大林 江 輕 如
 財 産 祠廟敷地○甲二三九二、田○甲四九九七

沿革||本廟は明治五年信者嚴王の發起にて附近の信者より寄附金一千八百圓を募り創設したるも其後廟宇自然に破損せるより王十一なる者發起して信者より一千五百圓を募りて明治三十四年改築したるが超へて明治三十九年に至り大地震の爲め又々破損したれば林氏茲發起となり附近信者より四百圓を募り再び改築せりと

聖 母 廟

所在 大林庄甘蔗崙

教 別 儒 教
 祭 神 天上聖母、孫元帥、許元帥、觀音佛祖、開漳聖王、同夫人、太子爺、五谷王、土地公、土地婆、三山國王
 創 立 乾隆年間
 例 祭 舊曆二月廿七日、三月廿三日、九月九日
 爐 主 甘蔗崙 吳 越
 財 産 祠廟敷地○甲五八四五、田○甲六七
 一四、畑○甲二九八〇

沿革||本廟は乾隆年間の創立にして元本廟敷地は公館ありて收税吏の如き者居住せるが此者北港の媽祖を信する事篤く遂に附近の住民と謀りて本廟を創立せり其後久しく修繕を加へざる爲め廟宇自然に頽廢したれば吳超群發起となり庄民の醮金を集め明治三十一年改築せりと

佛 方 宮

所在 大林庄大湖

教 別 佛 教
 祭 神 祖師公、關羽、土地公、土地婆、池府千歲爺、五谷王、媽祖、開臺尊王
 創 立 不詳
 信 徒 二百人
 例 祭 舊曆三月廿五日
 管理人 大湖 劉 峯
 財 産 祠廟敷地○甲〇八三一、畑○甲三〇八五

沿革||本廟の祭神は現管理人劉峯の祖先が支那より携へ來り家廟を建て奉祀せるを後庄民と協議の上此家廟を取毀ち其材料を提供し庄民は勞力を供給して創立せしものなるも其年代不明なり其後明治四十年及大正二年修繕を加へたるも其費用は總て廟の所屬財産より支出せりと

聖 母 廟

所在 大林庄大湖

教 別 儒 教
 祭 神 天上聖母、土地公、王爺
 創 立 約百八十年前
 信 徒 百十人
 例 祭 舊曆三月廿三日
 管理人 大湖 劉 古
 財 産 祠廟敷地○甲〇三二〇

沿革||本廟の創立は百八十年前なりと稱するも詳細不明なり、其後今より約七十五年前出水の爲め流失せしを以て陳知母、呂復全、劉知高等發起して再興を圖り咸豐六年竣工せり其後同治六年謝順生呂秉乾、陳老對、余應順、劉萬壽發起して大修繕を加へ更に光緒十五年明治三十二年にも修繕を加へたるが費用は總て庄民の醮出に依れり

福 德 爺 廟

所在 大林庄下埤頭

教 別 儒 教
 祭 神 土地公、土地婆

創立 約九十年
 信徒 八百人
 例祭 舊曆二月廿九日
 爐主 下埤頭 朱 江
 財產 祠廟敷地○甲一一九〇、建物敷地○甲〇三七〇、田一甲四八二八、畑〇甲三〇九五、池沼三甲一九七五

沿革 本廟は今より約九十年前陳某なる者が發起して部落民より多少の寄附を募りて創立せる者なるが明治三十九年の震災に倒壊したれば陳秋なる者の斡旋にて大正元年現在の廟宇に改築されたる者なりと

大道公廟

所在 大林庄下埤頭

教別 儒教
 祭神 保生大帝、康元帥、趙元帥
 創立 同治五年
 信徒 八百餘人
 例祭 舊曆二月廿九日
 爐主 下埤頭 朱 江
 財產 祠廟敷地○甲二四五五、田○甲三二八〇

沿革 本廟祭神は最初當部落の某が自宅に奉祀し居たるが靈顯著しきものあるより部内の有志相謀り李新周發起人となり寄附金六百圓を募り同治五年廟宇を建立し祭神を奉祀したるもの同地の李新周、賴陣、賴騫等専ら其創立に斡旋せり然るに明治三十九年の震災に大破したれば賴隈、徐松の兩人發起して信徒より二百二十圓の寄附を募り明治四十二年改築竣工せりと

玄天上帝廟

所在 大林庄下埤頭

教別 儒教
 祭神 玄天上帝、兵將、觀音佛祖、媽祖、土地公、土地婆
 創立 約百十年前

信徒 八百餘人
 例祭 舊曆二月廿九日
 管理人 下埤頭 朱 江

沿革 凡そ百十年前の創立なりと云ふも當時の狀況明かならず、其後明治二十四年庄民の寄附三百圓を以て改築したるに明治三十九年の地震に倒壊したれば庄民又々八百圓を醸出して明治四十一年改築竣工せりと

保安宮

所在 大林庄排子

教別 儒教
 祭神 王孫大使、三王爺、玄天上帝、清水祖師
 創立 道光十五年
 信徒 四百人
 例祭 舊曆五月四日
 管理人 缺員
 財產 建物敷地○甲五六四〇、田○甲六九二〇、畑○甲三五九五

沿革 同庄陳姓の祖先が支那より携へ來り自宅に奉祀せるに靈顯著しかりければ陳福星及庄民有志發起して道光十五年廟宇を建立奉祀せりと云ふ其後改修築等の事を聞かずと

福德爺廟

所在 大林庄排子

教別 儒教
 祭神 土地公、黃府千歲爺、欽王爺
 創立 明治二十五年
 信徒 二百人
 例祭 舊曆六月十八日
 管理人 排子路 郭老義
 財產 建物敷地○甲二八三〇

沿革 明治二十五年庄民協議の上書房に充つる目的にて同地の郭禎發起して庄内より百三十圓を募集し公共建物を建設し先づ之れに本祭神を奉祀したるものな

り爾來改修築の事なしと

新 連 庵

所在 大林庄溝背

教 別 佛教

祭 神 觀音佛祖、善才、良女、鬱陶

創立 約百年前

信徒 二千二百七十人

例 祭 舊曆三月九日

管理人 溝背 江 善

同 簡 意

財產 祠廟敷地○甲二二一五、田一甲七一

四五、畑一甲六三四○

沿革 今より凡そ百十年前當庄の江岸

中なる者嘉義王田の觀音佛祖を信仰し其御利益に依り病氣全快したれば庄民を勸め自から工費の大部分を負擔し庄民の一部より幾分を醸出せしめ總額一千圓を以て本庵を創立せり然るに明治三十九年の震災に倒壊したれば江琳修、江琳權、簡寛道等發起して庄内信徒より金五百圓を集め其年改築せりと

上 帝 爺 廟

所在 大林庄湖子

教 別 儒教

祭 神 玄天上帝、觀音佛祖、關羽、土地公

創立 約七十年前

信徒 二百二十八人

例 祭 舊曆三月十日

管理人 缺員

財產 祠廟敷地○甲○八七○

沿革 以前は祭神を有志順番に持廻り奉祀したるも煩雜且つ不便なるより今より七十年ばかり前庄民協議の上廟宇を建立して之に奉祀したるが其後廟宇漸次破損したれば今より約三十年前庄民約三十圓を醸出して之を改築したりと

上 帝 爺 廟

所在 小梅庄小梅

教 別 儒教

祭 神 上帝爺、五谷王、十八羅漢、福德爺

康、趙二元帥、龜、蛇二將

創立 嘉慶二十五年

信徒 約一萬人

例 祭 舊曆三月三日、七月十五日、十一月中旬 (臨時祭數回)

管理人 小梅 吳明貴

財產 祠廟敷地○甲○八〇五、山林二甲八

七二〇、田五甲四一六一

沿革 嘉慶二十五年總理、游廟祝の發

起にて住民の安寧幸福を祈り特に毒蛇の咬毒惡疫の流行を免かるゝ祈願の爲め創立したるものなるが明治三十九年の震災に倒潰したれば林鄭氏有梅、吳春委、江匡國、楊占春等發起し當庄は勿論附近の村庄よりも寄附を募り同四十四年之を改築せりと

萬 善 廟

所在 小梅庄小梅

教 別 儒教

祭 神 大衆爺、無縁の遺骨

創立 道光元年

信徒 千二百三十人

例 祭 舊曆五月五日、七月十五日、十二月末日

管理人 小梅二二七 吳春委

財產 祠廟敷地○甲○七三五

沿革 本廟の祭神は林爽文の亂に力闘戦死せる勇士を祀れる萬安亭より分香し來り且つ所在無縁の遺骨を合祀すべく當庄の吳其なる者の斡旋に依り道光初年に創立されたる者にして其後咸豐八年改修を加へたるが明治三十九年の震災に倒壊したれば區長吳春委發起人となり約百二十圓の喜捨を集め大正四年再興せりと

保 元 宮

所在 小梅庄過山

教 別 儒教
 祭 神 上帝爺、福德正神、康元帥、趙元帥
 觀音佛祖
 創立 康熙四十五年頃
 信 徒 百八十人
 例 祭 舊曆一月十五日、三月三日、十一月
 中旬、十二月末日
 管理人 過山一九六 林 道
 財產 祠廟敷地○甲○七九五、畑○甲六四
 九五

沿革 本廟は康熙五十五年頃所在の安寧幸福と除疫を祈る爲め林某發起の下に創立されたるが明治三十九年の震災に倒れたれば林道、郭福等發起して庄民と協議の上任意の寄附金品勞力を募り同年土角造りに改築せりと

玉 繩 宮

所在 小梅庄大草埔

教 別 儒教
 祭 神 上帝爺、觀音佛祖、王爺公
 創立 同治八年
 信 徒 百五十人
 例 祭 舊曆三月三日、九月十九日
 管理人 大草埔五九 吳 順
 財產 祠廟敷地○甲一○三〇

沿革 同治八年頃庄民吳瀾なる者發起し庄民と協議の上庄の安全幸福を祈る爲め小祠を建て臺南上帝廟より分香して奉祀せる者にして明治三十九年の震災に倒壊したれば吳玩、朱東、賴明、翁長等の有志庄民と協議の上明治四十五年改築竣工せりと

眞 武 廟

所在 小梅庄大草埔

教 別 儒教
 祭 神 上帝爺、康、趙二元帥、三官大帝、五谷王
 創立 嘉慶十五年
 信 徒 三百五十人

例 祭 舊曆三月三日、十月十五日
 管理人 大埔草五七〇二 楊 金 胚
 沿革 嘉慶十五年漳洲の楊德なる者本廟祭神を携へて移住し庄民に謀りて廟宇を建立奉祀せり然るに明治三十九年の震災にて倒壊したれば庄民楊食胚、陳派等發起して信徒有志より百三十五圓の醴金を集め明治四十一年之れを再興せりと

金山岩觀音佛祖廟

所在 小梅庄大草埔

教 別 佛教
 祭 神 觀音佛祖、王爺、五谷王
 創立 道光七年
 信 徒 六百人
 例 祭 舊曆二月十九日、六月十九日、九月十九日
 管理人 大草埔五四五 吳 潤
 財產 祠廟敷地○甲○五五〇

沿革 道光七年吳恒對發起し庄民と計り建立したるが明治三十九年の震災に倒壊したれば許文再、吳瀾、沈學、吳石墩發起となり庄民と協議し附近の數部落より寄附金五百圓を募り大正三年再興せりと

福 德 祠

所在 小梅庄大草埔

教 別 儒教
 祭 神 土地公
 創立 嘉慶初年
 信 徒 三百五十人
 例 祭 舊曆八月十五日
 管理人 大草埔九九 楊 江
 財產 祠廟敷地○甲○〇三〇

沿革 本廟は嘉慶元年の創立なりと稱せらるゝも詳細不明なり其後明治三十九年の震災に倒壊したるも暫らく再興の議なかりしが照安寮の住民有志不安焦慮して金三百圓を醴集し大正四年再興せりと

上帝爺廟

所在 小梅庄大半天寮

教 別 儒教
 祭 神 上帝爺
 創 立 同治五年頃
 信 徒 四百五十人
 例 祭 舊曆三月三日、十一月末日
 管理 人 大半天寮一三 溫 萬 頂
 財 產 田〇甲一四八五

沿革 同治年間當地の有志上帝爺會を設け廟宇を建立して奉祀したるものにして現在の所屬財産は元同會の者を廟に引繼ぎたる者なり會員は設立當時は四十四名にして一年十錢宛を醸出し之を蓄積して財産を造成せりと

郭聖王爺廟

所在 小梅庄圳頭

教 別 儒教
 祭 神 郭聖王、三山國王、玉皇上帝
 創 立 乾隆年間
 信 徒 三百人
 例 祭 舊曆一月廿二日、八月廿二日、十月中旬
 管理 人 圳頭三六 郭 得 勝
 財 產 祠廟敷地〇甲五五四五、田〇甲三三〇五

沿革 乾隆年間の創立なりと云ふのみにて當時の事情一切不明、其後明治三十九年の大地震に倒壊したれば郭鐵發起となり庄内有志より金五十圓を募り明治四十年三月改築再興せりと

觀音廟

所在 小梅庄大坪

教 別 儒教
 祭 神 天上聖母、五谷爺、鄭國聖爺、太子爺、註生娘々、觀音佛祖
 創 立 乾隆三十二年
 信 徒 三百三十五人

例 祭 舊曆一月五日、六日、二月十九日、十一月十九日

管理 人 大坪九九 張 爲 添
 財 產 祠廟敷地〇甲三七五〇、田一甲〇四六五

沿革 今より百四十年前柳子林の黃根隆なる者庄民と共に協力して本廟を建立祭神六體を請祀せしものなるが明治三十八年の震災に大被害を受けたれば劉運昌、葉旺、陳筆等發起して改築を企畫し同年末竣工せり材料勞力は信徒の寄附に據れりと

龍興宮

所在 小梅庄龍眼林

教 別 儒教
 祭 神 上帝爺、鄭國聖爺、王爺、太子爺
 創 立 咸豐三年
 信 徒 三百五十人
 例 祭 舊曆十一月十五日
 管理 人 龍眼林五三 張 金 順
 財 產 祠廟敷地〇甲〇〇二二、保管林〇甲六〇〇〇

沿革 今より約七十五年前の創立にして材料勞力は王元懷の斡旋にて信者の寄附に仰ぎたりと云ふも詳細不明なり其後明治三十九年の震災に廟宇倒壊したれば金鳳、蔡李祥發起にて信者より金五十圓及材料勞力の寄附を受け同年十一月再興したりと

永興宮

所在 小梅庄生毛樹

教 別 儒教
 祭 神 土地公
 創 立 嘉慶二十四年
 信 徒 百五十人
 例 祭 舊曆二月二日、八月十五日
 管理 人 生毛樹八九 張 長 茂
 財 產 田〇甲〇一八五

沿革 嘉慶二十四年同地の陳坑生なる

者丸石の小堂宇を建立して天公と共に鋤犁を奉祀して祈願せるに著しき靈顯あり住民咸な之を信仰したるが偶々當時阿里山蕃屢々出でて、此附近を脅かし住民の不安又た絶えざりしが陳坑生中埔の吳鳳廟に詣で同廟の縁起を聞き吾等も吳鳳と同族なりと蕃人に諭告して漸く靜謐に歸したり之れ又た本廟祭神の加護なりとて益々信仰を高からしめしが其後數回の大降霜に丸石の堂宇其都度凍破し覆修面倒なるより明治二十三年現在の木造廟宇に改築せりと

源興宮

所在 小梅庄生毛樹

教別 儒教
祭神 吳鳳公、鄭國聖、五谷王、太子爺、王爺、觀音佛祖、天上聖母
創立 同治十年
信徒 百四十人
例祭 舊曆一月十五日、九月九日
管理人 生毛樹五八二 陳良寶
財產 祠廟敷地○甲○四三○

沿革||明治五年同地の陳生木發起となり庄民と協議し其勞力材料の寄附を仰ぎ建立し祭神を奉祀せし者なり尤も最初は吳鳳公、五谷王、鄭國姓、觀音佛祖を祀りたるも其後他の祭神の靈顯を傳へ聞きて漸次勸請奉祀したりと

眞武廟

所在 竹崎庄竹崎

教別 儒教
祭神 玄天上帝、趙、康二元帥
創立 道光三十年
信徒 百五十人
例祭 舊曆三月三日
管理人及爐主 竹崎四四六 何頭
財產 ○甲○二〇五

沿革||清國時代の徵稅官吏たりし郭清

鐘伯能發起して各二百圓宛を寄附し且つ庄民よりも釀金二千圓を集め道光三十年本廟を建立せり然るに明治三十九年の震災に廟宇の兩側破損し一部倒壊したるも未だ再築の目論見を聞かずと但し本廟の祭神玄天上帝は蘭定の祖先某が福建武東山より分鎮せるに新巷の某が當地に土地を所有し其賤耕料未納の爲め新巷に持ち歸りたるを庄民交渉數回に亘り漸く取戻して奉祀せる者なりと

拱隆宮

所在 竹崎庄竹崎

教別 儒教
祭神 福德正神
創立 道光二年
信徒 十二名
例祭 舊曆二月二日、八月十五日
管理人 竹崎一三五 賴木縣

沿革||今より凡そ百六十年前何人か神像を奉じ來りたるも其何神なるかを知らず其後數十年を経て福德正神なる事を知り道士鐘伯能、道士郭清德等庄民と謀り一小石祠を建立し神體を奉祀したり之れ道光二年なりしと其後明治三十九年の震災に多少の破損を蒙りたるも庄民出役寄附のみにて修葺せり

長興祠

所在 竹崎庄竹崎

教別 儒教
祭神 福德正神
創立 乾隆五年
信徒 六十人
例祭 舊曆二月十一日、七月十一日
管理人 缺員
財產 祠廟敷地○甲○〇一七

沿革||本廟は乾隆五年道士鐘伯能庄民と謀り福德正神の神像が雨に曝らされて路傍に奉祀しあるを畏れ多しとして金三

十圓を醜集して一小祠を建立せり之れ道光二年なり其後明治三十九年の地震に堂宇破損したるも庄民協議の上直ちに修繕復舊せりと

龍山岩

所在 竹崎庄瓦厝埔

教別	佛教
祭神	觀音佛祖、玄天上帝、吳鳳、國聖
創立	不詳
信徒	多數
例祭	舊曆二月十九日、四月廿六日、六月十九日、十一月十九日
爐主	竹崎二八一 劉 叫
財產	祠廟數地○甲○八二五

沿革 年代は不詳なるも林古徳なる者本尊を支那より奉じ來り自から土地を寄附し附近の庄民を勧誘して寄附金を募り本廟を創建せり然るに明治三十九年の地震に大破したれば許猫生發起人となり附近數部落より小額の寄附金を募り別に勞力材料の寄進を仰ぎ明治四十一年改築せりと

眞武廟

所在 竹崎庄覆鑄金

教別	儒教
祭神	玄天上帝、保生大帝、五谷王、土地公、觀音佛祖、虎爺、元帥爺、太子爺
創立	雍正十二年頃
信徒	三百人
例祭	舊曆三月三日
管理人	覆鼎金二三三 陳進寶
財產	田二甲五七七〇、畑○甲五二〇五、祠廟數地○甲七六二九

沿革 本廟の創立縁起等は殆んど之を知る者なし然るに其後明治二十年頃廟宇漸次破損を加へたれば張天呆發起して修繕を爲したるが明治三十九年の地震に倒壊したれば林屋、陳林儀、張添、邱諸、

陳進寶等發起して所在の信徒より金二百二十圓を募集し他に所有財産の土地を典して四百圓を得合計六百二十圓を以て大正元年改築せりと

奉天宮

所在 竹崎庄綴厝寮

教別	佛教
祭神	觀音佛祖、地藏王、玄天上帝、吳鳳、保生大帝、關帝君、五顯帝君、太子爺、大聖爺
創立	明治三十七年
信徒	百七十人
例祭	舊曆一月七日
管理人	綴厝寮一七 林傳進

沿革 以前は各祭神を個人の宅に奉祀せるも斯くては神威を瀆す慮れありとて林傳進なる者發起して明治三十七年材料持寄り寄附四十圓を募りて阿里山線獨立山の麓に地を相し一小廟宇を建立して各祭神を奉祀したるが超へて三十九年阿里山線工事の爲め紅南坑に移築する事となり此時も林傳進發起にて寄附金六十圓材料持寄りにて再築移轉せるに大正元年山崩れの爲め埋没したれば更に林傳進、陳進來發起して寄附金三十圓と材料持寄りにて大正四年三度建立せりと

眞武廟

所在 竹崎庄綴厝寮

教別	儒教
祭神	地藏王、玄天上帝、天上聖母、太子爺、元帥爺、土地公、觀音佛祖、虎爺
創立	約百四十年前
信徒	三百五十人
例祭	舊曆三月六日、七月廿九日、九月九日
管理人	綴厝寮五六 張 玉
財產	祠廟數地○甲○○四〇、保管林一二甲八〇〇〇、田○甲一八〇〇

沿革 今より約四十年前漳州人來りて

本廟を創立せりと云ふも年代等詳ならず然るに其後廟宇漸次破損したれば張番の主唱にて所屬財産より百圓を投じて明治三十一年修築を加へ更に其後震災の爲倒壊せしを以て蕭有徳、張玉等發起して所屬財産より約四百圓を投じて大正元年改築せりと

新興宮

所在 竹崎庄鹿麻産

教別	儒教
祭神	觀音佛祖、玄天上帝
創立	道光元年
信徒	百人
例祭	舊曆二月十九日、三月六日、六月十九日
管理人	鹿麻産四七九
財産	田〇甲四一五〇

沿革 道光元年林振獅、林振明、林杉の三人發起となり信徒より百圓の喜捨を得、不足額は前記三人にて負擔し本廟を建設せりと

福安宮

所在 竹崎庄鹿麻産

教別	儒教
祭神	五谷聖帝、開臺尊王、福德正神
創立	嘉慶年間
信徒	四百五十人
例祭	舊曆四月廿六日
管理人	缺員

沿革 本廟創立に關しては殆んど其事情を知れる者なし其後光緒十八年鹿麻産の江成なる者發起し信徒の喜捨千二百圓を集めて改築せり然るに明治三十九年の大地震に危険家屋となり取毀ちたるも其後再興の氣運に至らずと

土地公廟

所在 竹崎庄灣橋

教別	儒教
祭神	福德正神
創立	咸豐六年
信徒	二百五十人
例祭	舊曆八月十五日、十月五日
管理人	灣橋七二九 李捷魁
同産	同 李和
財産	祠廟敷地〇甲〇六七五、田〇甲一三八〇、畑〇甲六四九〇、原野〇甲一六八五

沿革 咸豐六年土地の有志者協議の上創立せりと云ふのみにて其他不明、其後明治三十九年の地震に破損したるも未だ修覆せずと

復興廟

所在 竹崎庄灣橋

教別	儒教
祭神	福德正神
創立	咸豐六年
信徒	四百二十人
例祭	舊曆二月二日、八月十五日
爐主	灣橋五四一 張 寮
財産	祠廟敷地〇甲一三七一、畑〇甲三四一〇

沿革 咸豐六年信徒の喜捨百五十圓を以て創立せりと云ふのみに其他の狀況不明

上帝廟

所在 竹崎庄灣橋

教別	儒教
祭神	玄天上帝、土地公、隨神二體
創立	約百十年前
信徒	四百二十人
例祭	舊曆三月三日
管理人	灣橋五四一 清 洋
財産	祠廟敷地〇甲三五二〇

沿革 本廟の祭神は最初民家に奉祀しありしを當時偶々匪賊の爲め奪去されたるものあり其家人本祭神に祈願せるに果

して歸來せり依つて附近住民皆な其靈顯の著しきに驚き陳某、黃提の兩名發起して信者より喜捨を受け本廟を創設遷祀せり然るに明治三十九年の震災に大破したれば林定の發起にて寄附金三百圓を募り明治四十一年改築再興せりと

建 興 宮

所在 竹崎庄灣橋

教 別	儒 教
祭 神	五谷聖帝、觀音佛祖、福德正神
創 立	嘉慶三年頃
信 徒	四百六十人
例 祭	舊曆二月、九月不定日
管理人	灣橋二九七 胡呈祥
財 産	祠廟敷地○甲○七三〇、田二甲二三二四

沿革||本廟の主神は嘉慶三年何人かゞ福建省より奉持し來り信徒一同協議の上小祠を建立せり然るに明治三十九年の震災に廟宇倒壊したれば胡金水、朱江等發起して附近の信徒より建築材料及寄附金二百二十五圓を募り廟所屬の粗穀七十二圓餘借入金百十圓、廟所屬廢物處分金二十二圓合計四百餘圓を得て明治四十二年改築再興せりと

玉 山 岩

所在 竹崎庄内埔子

教 別	佛 教
祭 神	觀音佛祖、五谷王、福德爺、大佛公太子爺、關帝君
創 立	光緒年間
信 徒	二千人
例 祭	舊曆二月九日、二月十九日、六月十九日、九月十九日
管理人	内埔子六九五 林 瑞
財 産	田二甲一四四五、畑○甲五六一〇、山林○甲〇二七〇、原野○甲一四二〇

沿革||本廟の創立に關して詳細を知る

ものなきも當初信者中の有力者林勉、林瑞等發起して本廟を建立し且つ別に基本財産として田畑山林等を買収し其收入を維持費に充つる事としたるが其年代は不明なり、其後明治三十九年の大震災に倒壊したれば前管理人の母陳氏某が各方面の信者より寄附金六百圓を募集し翌年之を改築せりと

土 地 公 廟

所在 竹崎庄内埔子

教 別	儒 教
祭 神	土地公
創 立	道光五年頃
信 徒	三十人
例 祭	舊曆八月十五日
爐 主	内埔子二二九 游利邦

沿革||本廟創立の事情を知るものなく且つ其後改修築等を行ひたるや否やも不明なり

土 地 公 廟

所在 竹崎庄内埔子

教 別	儒 教
祭 神	土地公
創 立	乾隆十九年頃
信 徒	八十人
例 祭	舊曆八月十五日
管理人	樟樹坪七二三 林輝盛

沿革||本廟は民屋の一部を其儘使用せる小堂宇なり、乾隆十九年同地林姓の者六十八人に據りて建立されたるものにして其祭祀は同姓の土地公會より行ふと

關 帝 廟

所在 竹崎庄樟樹坪

教 別	佛 教
祭 神	觀音佛祖、太子爺、吳鳳、土地公
創 立	明治四十四年
信 徒	約百人

例 祭 舊曆二月十九日、六月十九日、十月十九日
 管理 人 樟樹坪一、二一 陳 叫
 沿革 本廟は同地の陳叫なる者の發起にて庄内の各個人の宅に奉祀する神像を併せ祀らん爲め明治四十四年廟宇を建立したる者にして費用は陳叫自身八十圓其他は信徒の喜捨に依り合計二百圓を要したりと

廣 福 宮

所在 竹崎庄金獅寮

教 別 儒 教
 祭 神 玄天上帝、土地公、保生大帝、元帥爺、虎爺
 創 立 二百三十年前
 信 徒 六百七十人
 例 祭 舊曆三月三日
 管理 人 金獅寮一八四 邱 蓮 逢
 同 同 八三 張 海
 財 產 山林不詳、祠廟敷地○甲○五六〇
 沿革 去今二百三十年前廣東の余金なる者初めて此地に來り開墾に従事せし時玄天上帝を奉じ來りたるが其後金獅寮の土地公を分請して廟宇を建立奉祀せり然るに其後廟宇甚だしく荒廢したれば邱不獅發起にて所屬財産の龍眼肉を十ヶ年間二百四十圓にて豫約賣却し別に信徒の勞力寄進を仰ぎ大正元年改築せりと

清華山觀音佛祖

所在 竹崎庄番子潭

教 別 齋 教
 祭 神 觀音佛祖、釋迦牟尼佛
 創 立 不詳
 信 徒 九人
 例 祭 舊曆二月十六日、四月八日
 爐 主 番子潭 周 春 木
 財 產 田○甲五七二〇、畑一甲二七六五、山林四甲六一〇〇、原野一甲三五〇〇
 沿革 初め乾隆年代齋教を信する或る

老婦人が自宅に觀音佛祖を祀り朝夕奉仕せるが不幸火災に燒盡せるを以て齋友吳其玉、郭族海等相謀りて釀金し一小廟宇を建て佛祖を遷祀せり清華山は廟所在地の山名にて廟名は德源寺と稱するも廟名を稱ふる者少なし其後明治三十九年の震災に倒壞したれば周春木主唱となり各地の有志より寄附金二千圓を醸集して明治四十三年現在の廟宇に改築せりと

保生大帝廟

所在 竹崎庄番子潭

教 別 儒 教
 祭 神 保生大帝、土地公、太子爺、觀音佛祖
 創 立 不詳
 信 徒 五百四十人
 例 祭 舊曆三月十五日
 爐 主 番子潭 蔡 音 虎
 財 產 祠廟敷地○甲一三三〇、畑一甲一三三五、田○甲三三五〇
 沿革 本廟の創立緣起其他一切不明なり然るに其後歲月を経て廟宇漸次破損したれば（年代不詳）洪周林、吳成等發起となり第一回の修繕を行ひたるが次いで明治三十九年の地震に廟宇倒潰せしを以て黃在發起して庄民より三百圓の醸金を受け昭和四年現在の箇所に移築遷祀せりと

福 安 宮

所在 番路庄内斐

教 別 儒 教
 祭 神 太子爺、土地公、虎爺
 創 立 道光庚子年
 信 徒 二百人
 例 祭 舊曆七月十五日、九月九日
 管理 人 内斐六六二 江 連
 財 產 祠廟敷地○甲○五一五
 沿革 本廟の創立緣起に就いては二三

の浮説あるも要するに道光庚子年蕭春敬なる者が發起して三四十圓の釀金と材料勞力の寄附を受け柳仔林の太子爺を分香して建廟奉祀したる者にして明治三十九年の地震に大破したれば江連の發起にて庄内より釀金百四五十圓と勞力材料の寄附を仰ぎ明治四十三年改築せる者なりと

鎮安宮

所在 番路庄内饗

教別 儒教
祭神 李王爺、雷王爺、利王爺、朱王爺、五谷王、五鼎帝、虎爺、其他
創立 同治六年
信徒 百五十人
例祭 舊曆一月十六日
管理人 內饗五一六 何傳
財產 祠廟敷地○甲一〇三五、田○甲〇七六〇

沿革 同治六年嘉義の李排なる者が當地移住の際李王爺の神像を奉じ來り庄民と協議の上一小宇を建て之を奉祀したり其の後今より五六十年前堂宇荒廢したれば池水俊、張産等の斡旋にて之を改築したるが明治三十九年の震災に再び大破したれば庄民の釀金百二十圓と材料勞力の寄附に依り明治四十二年修葺せりと

森興宮

所在 番路庄番子路

教別 儒教
祭神 水仙王、福德爺
創立 道光甲辰年
信徒 百五十人
例祭 舊曆七月廿九日、十一月廿五日
管理人 番路五〇四 李仲

沿革 道光甲辰年所在鎮護の爲め庄民協議本廟を建立したる者なるも其當時の狀況及其後の改修築等不明なり

紫雲寺

所在 番路庄番子路

教別 佛教
祭神 釋迦牟尼佛、觀音佛祖、十八羅漢、虎爺、土地公、山神、五谷王、註生娘々、笠南爺
創立 乾隆二十九年
信徒 四百五十人
例祭 舊曆二月十九日、六月十九日、七月廿二日、十一月十九日
管理人 番路三四三 林猛
財產 祠廟敷地○甲三七二五、建物敷地一甲五一八五、田四甲一一五〇、畑〇甲九七六〇、原野〇甲六四八〇

沿革 康熙十三年頃支那より七十餘りの老人が當地に移住し半天岩の地を相し一小祠を建て護符として携へ來りし神畫を奉祀して日夕禮拜怠たりなかりしが偶々此老人死亡したるより附近の信仰漸く衰へんとせり然る其後清國より臨濟宗の僧侶覺宗和尚當廟に來り阿里山蕃の通事陳宗求及陳開と商議し信者の喜捨に依り乾隆三十年之を改築せり次いで咸豐七年廟宇再び荒廢甚だしく此儘放置を許さざる事となりしより牛稠山の郭輝海、同人父郭上進、郭桂掌、黃大掌等發起して銀一千五十五圓を募り之を改築せりと

賜福堂

所在 番路庄公田

教別 儒教
祭神 福德爺、吳鳳
創立 年代不詳
信徒 三百人
例祭 舊曆二月二日、八月二日、八月十五日、十二月十五日
管理人 公田二六 劉俊勇

沿革 本廟の創立縁起等一切不明なるも蕃害を防ぐ鎮守として建立せるものゝ如し其後明治三十四年廟宇破損せしかば

所在の有志協議の上金品を醸出して現在の如く改築せりと

林王爺廟

所在 中埔庄鹽館

教別 儒教
 祭神 林王爺、福德爺、五谷王、太子爺、上帝爺
 創立 七八十年前
 信徒 三百五十人
 例祭 舊曆八月廿二日、
 鹽主 鹽額一九一 劉瑞乾

沿革 今を去る六七十年前當地に蘇某と云ふものあり中埔の製糖業に雇はれ執務中一脚を負傷し中埔の林王爺廟に祈願したるに靈顯ありて負傷全治したれば其謝恩として蘇の故郷なる當地に本廟を建立して林王爺を勸請し來りて奉祀したるが其後一般住民も之を信仰する事となりたるものなりと

仙姑娘廟

所在 中埔庄灣潭子

教別 儒教
 祭神 仙姑娘、無緣仙
 創立 乾隆五十年
 信徒 八十人
 例祭 舊曆五月五日、七月十五日、十二月三十日
 管理人 缺員

沿革 本廟の創立緣起一切不明なるも年代は乾隆五十年頃なりと傳ふ其後道光十年に庄民百二十圓を醸出して改築せりと云ふ尤も本廟の祭神仙姑娘及無緣仙等も他に祭祀する處なく當廟獨特の者なるが之れに對する傳説も極めて詳細を盡さず只だ仙姑娘は往時河流に陥りて溺死せる少女の靈なりと云ふのみなり察するに本廟は他の有應公廟の如く無縁の遺靈を祀るものなるべし

順天宮

所在 中埔庄竹頭崎

教別 儒教
 祭神 天上聖母、註生娘々、土地公、太子爺、千里眼、順風耳
 創立 年次不詳
 信徒 四百五十人
 例祭 舊曆三月廿三日
 管理人 竹頭崎三五〇 涂阿虎
 財產 一甲三八二〇

沿革 本廟の創立に就いては之れを知る者なきも最初の廟宇は極めて粗雑の土角造りなりしも今より約七十年前竹頭崎の鄭荷低及深坑の陳福伍兩名の斡旋にて附近住民より五千圓の寄附金を募り之を改築したり然るに明治三十九年の大地震に廟宇大破したれば竹頭崎の陳把發起人となり所在住民より金百圓を集め同四十二年改築せりと

淮安宮

所在 中埔庄中埔

教別 儒教
 祭神 林王爺、李王爺、觀音媽、上帝爺、太子爺、神農聖帝、福德爺
 創立 同治六年
 信徒 四百人
 例祭 舊曆八月廿二日、十一月不定日
 管理人 中埔九二 林玉樹
 財產 建物敷地〇甲〇一七三

沿革 今より約六十年前同庄の洪哮王なる者中埔の王爺の靈顯著しきを聞き之を勸請して自宅に奉祀し居りしに其後魏厥なる者の宅に遷祀したるが斯くては祭祀其他不便少なかずとなし庄民協議の上金品を寄進して一小廟宇を建設して爰に遷祀したり然るに明治三十九年の大震災に廟宇倒壊したれば庄民協議の上寄附金四百圓を醸出し且つ材料勞力を寄進して

保安宮

所在 中埔庄下六

教別 儒教
祭神 池王爺、土地公、福德爺、鄭成功、上帝爺、太子爺

創立 百六十年前
信徒 四千人
例祭 舊曆一月十八日、六月十八日、七月十九日

管理人 下六六〇 陳萬
財產 田一甲三一〇、畑〇甲一五三〇

沿革||往昔より當部落の八掌溪畔に一小廟宇あり多分八掌溪の氾濫を除き土地の平安を祈る爲めに創立せしものならん之れ少なくも今より百五十年前ならんと云ふ然るに其後何時の頃なりけん司公廟に吳見と云ふ博徒あり常に此の廟に祈願して勝を得遂には嘉義、鹽水港、臺南等に出で、賭博を爲し勝に乗じて財を集め郷村内屈指の富豪となりたれば其報恩として本廟を改築し自からは臺南に移住して年々祭祀料六圓宛を送れりと斯くて今より四五十年前同廟宇漸次破損の度を加へ來りたれば同廟の管理人許天遂發起人となり嘉義東堡四十九庄より寄附金一千六百圓を募りて現在の所に移轉改築せり然るに明治三十九年の震災に大破したれば管理人張昌發起にて寄附金三百圓を集め明治四十一年大修繕を加へたりと

吳鳳公廟

所在 中埔庄社口

教別 儒教
祭神 吳鳳、吳鳳娘、上帝爺、太子爺、虎爺
創立 乾隆三十四年
信徒 九千人

例祭 舊曆三月三日、八月三日
管理人 樹頭埔八七 廖旺
同社 社口六六七 羅進
財產 祠廟敷地一甲四八九五

沿革||祭神吳鳳は阿里山蕃の通事なりしが身を殺して蕃人の馘首の悪習を矯正せし者にして其事蹟小公學校の教科書にも掲載されれば今は爰に贅せざるも後人其徳を慕ひて廟宇を建て之を祀れり之れ乾隆三十四年頃なりと斯くて明治四十年前後より本島の理蕃事業計畫さるゝに及び理蕃上尤も由緒ある本廟の荒廢に傾けるを遺憾とし所管官廳は勿論上は佐久間總督、大津蕃務總長にまで上聞して改築を企圖し金四千圓の寄附を募り明治四十四年改築せり然るに其後更に其規模の小なるを遺憾とし所管官廳に於て全島より寄附金を募集し大廟宇を建設せんとして目下其寄附募集中に屬す

福安宮

所在 中埔庄頂八

教別 儒教
祭神 上帝爺、土地公、太子爺、池王爺、五谷王
創立 約百十年前
信徒 二百人
例祭 舊曆三月三日、七月十五日
管理人 頂六 四 蘇萬風
財產 建物敷地一甲三三七五、田〇甲三一〇、原野〇甲〇三三五

沿革||本廟は凡そ百年前の創立なりと云ふも當時の狀況を知るものなし斯くて明治三十八年廟宇漸く頽廢したれば其地の張鵬なる者發起して寄附金三百圓を募集し之を修築したるが同三十九年の地震に倒壞したれば蘇萬風發起人となり又々信徒より三百金を醸集し明治四十三年現在の箇所に移轉改築せりと

田頭公廟

所在 中埔庄龍山脚

教別 儒教
 祭神 人魂
 創立 咸豐年間
 信徒 六人
 例祭 舊曆一月三日、五月不定日
 管理人 缺員
 財產 田〇甲六八八〇

沿革 今より百五六十十年前漳州人張娘祿なるもの當庄に來り開墾を爲し蓄財二百餘圓を遺して死亡せるも遺族なかりければ庄内張姓の者協議し右遺產にて廟宇を建立し本人を祀ると共に其基本財産をも購入し置きたる者にして其後改修築の事なしと

上帝爺廟

所在 中埔庄頂埔

教別 儒教
 祭神 上帝爺、土地公、太子爺
 創立 約八十年前
 信徒 四十人
 例祭 舊曆三月三日、九月九日
 管理人 頂埔一五六 陳知胚

沿革 本廟の祭神は今より七八十年前漳州人羅水が頂埔に移住の時奉じ來りたる者なるが屢々靈顯ありたりとて庄民の信仰を得庄民協議の上横坑山に一小廟宇を建て此處に奉祀せり然るに其後廟宇荒廢したるも容易に改築の氣運到來せざるのみならず横坑山は參拜に不便なりとて遂に光緒二、三年に及びたるが斯くては神慮の程も計り難しとて庄民一日協議の上釐金三十圓と勞力材料の寄附を求めて光緒四年現在の箇所に移轉改築せりと

上帝爺廟

所在 大埔庄大埔

教別 儒教
 祭神 玄天上帝、康、趙二元帥、媽祖、觀音佛祖、太子爺
 創立 乾隆三十年
 信徒 七百五十人
 例祭 舊曆三月三日、九月九日
 管理人 大埔二二四 葉耳
 財產 祠廟敷地〇甲一八八〇、田二甲五一九五

沿革 今より百五六十十年前下茄荖堡の某上帝廟の神符を携へて當地に來り病人に示して祈願せしむるに靈顯著しかりければ庄民小祠を建て神像を刻みて爰に奉祀せり然るに其後我慶應年間葉揚春なる者工費五百圓を投じて之を改修し次いて明治三十八年葉耳の發起にて釐金三百五十圓を以て改築し降つて大正三年葉耳の發起にて庄民より寄附七百五十圓を募集して改築を爲し引續いて落成式並に大祭を執行せりと



互の親睦を計り幸福を祈願する爲め組織せるものにして當初會員一圓宛を出金し基本金として他に貸付け利殖を計り今日に至れり貸付金二十七圓

上帝爺會

嘉義市大溪厝四九四

祭神 玄上帝爺

會員 七人

創立 不詳

例祭 舊曆三月三日

管理人 嘉義市大溪厝四九四 吳老生

沿革及經理 沿革不明なるも會員の祖先が會員の平安と幸福を祈り併せて相互の親睦を敦ふる爲め創立したるものゝ如し所屬財産田〇甲三六八五年收八圓あり維持費に充てゝ居ると

水上庄

神明會

水上庄南靖四八四

祭神 關帝、其他從祀配祀六神位

會員 五十人(同地羅姓の者)

創立 明治五年一月

例祭 舊曆一月十三日、五月十三日

管理人 水上庄南靖四八六 羅方波

沿革及經理 當初當地最先の移住者羅美源夫妻は當庄の開祖なればとて其遺産を以て祖厝を建立して之を祀りたるが後現祭神を迎え奉祀せり創立以來所屬財産に依り維持され居れり所屬財産畑四甲二六三五、池一甲一五八五、田二九一〇、祠廟敷地〇甲二五四五年收九十九圓ありと

福德爺會

水上庄番子寮

祭神 福德爺、文武判官、觀音佛祖、五谷王

會員 百二十一人

創立 道光六年

例祭 舊曆二月十四、十五兩日、四月廿六日

管理人 水上庄番子寮 黃現

沿革及經理 本會は庄民の幸福増進並に農作物の豊穰を祈る爲め同庄の吳光全、黃天來、鐘不顯等發起して創立したる者にして會員は最初基本金として銀若干を醸出し之れにて田畑を買入れ小作料を以て祭事費維持費に充て尙ほ他の神佛にも寄進し來れるが現所屬財産は池五甲〇五二五、畑〇甲三八九〇年收五十八圓ありと

福德爺會

水上庄番子寮

祭神 福德爺

會員 九人

創立 咸豐元年

例祭 舊曆二月二日

管理人 水上庄番子寮 吳治

沿革及經理 豐作を祈り平安を願ふ爲め本會を創立し會員各自應分の醸金を爲し土地を購入して所屬財産として其收益を以て祭祀を營み維持費に充て殘餘は會員に分配す所屬財産畑三甲七五八五、原野〇甲四三二五其收益年五十五圓ありと

頂街大士爺會

民雄庄民雄

祭神 大士爺

會員 百二十八人

創立 二百年前

例祭 舊曆七月一、二、三日(三日間)

管理人 民雄庄民雄簡貴、同許國綱

爐主 同 劉水

沿革及經理 同地の大士爺信仰者を叫合し一圓宛の醸金を爲すものを會員として本會を創立し別に寄附金を加へ金四百八十圓を得之を利殖して田地を購入し其購料に依り祭費維持費を支辨し今日に至ると所屬財産田八甲九五六〇、畑一甲五〇九六年收四百五十九圓餘ありと

小普大士爺會

民雄庄民雄

祭神 大士爺

會員 二十二人

創立 二百年前

例祭 頂街大士爺會に同じ

管理人 民雄庄民雄簡貴、同許國綱

爐主 同 鄭乃邦

沿革及經理 同地の大士爺信仰者を叫合して本會を創立し會員より各一圓宛の醸金を仰ぎ合計五十八圓を得て之を他に貸與し利殖を計り田畑を購入し其收益に依り祭事費維持費を支辨する事として居るか現所屬財産は畑〇甲三一六〇、建物敷地〇甲三四六五あり年收五十二圓餘ありと

下街大士爺會

民雄庄民雄

祭神 大士爺

會員 八十六人

創立 二百年前

例祭 舊曆七月廿一日、廿二日、廿三日

管理人 民雄庄民雄簡貴、同許國綱

爐主 同 何占春

沿革及經理 同地の大士翁信者を募り金一圓宛を醸出する者を會員とする事として本會を創立し別に寄附金を合せて三百二十圓を得之を利殖して光緒元年に至り基本財産として田畑を購入し其賤耕料を以て會を維持し祭事費に充つる事としたるものなるが現所屬財産は田三甲四七〇〇、畑三甲五六〇〇、建物敷地〇甲〇一七〇にして其年收益は三百四十二圓に達すと

下街蘭盆會

民雄庄民雄

- 祭神 大士翁
- 會員 六人
- 創立 二百年前
- 例祭 頂街大士翁會に同じ
- 管理人 民雄庄民雄
- 會 西
- 爐主 同
- 曾 茂

沿革及經理 大街大士翁の祭典に當り同地西部地方の祭典に冷淡なるを遺憾とし本會を創立し祭典の盛大を計る事として互に出金し之を貸付利殖して光緒元年に基本財産として土地を購入し小作料を祭事費維持費に充つる事として今日に及びたるが基本財産は畑〇甲六五〇〇年收十五圓ありと

三界公會

民雄庄民雄

- 祭神 三界公
- 會員 十一人
- 創立 光緒元年
- 例祭 舊曆一月十五日
- 管理人 民雄庄民雄二三七
- 許 賊
- 爐主 同
- 陳 端

沿革及經理 同地に惡疫流行したる事あり三界公を祀れば此の厄に犯さるゝ事なかるべしとて同街の許料發起し男子は十錢女子は五錢宛の會費を徴して會員を募り會員二百三十人會費十五圓を得て他に貸付け利殖を計り光緒元年基本財産として土地を購入し爾來其收入に依つて祭事費維持費を支辨して居るが其基本財産田〇甲四三〇〇年收四圓ありと

天上聖母會

民雄庄民雄

- 祭神 天上聖母
- 會員 二十八人
- 創立 約百年前
- 例祭 舊曆三月十七日
- 管理人兼爐主 民雄庄民雄

沿革及經理 媽祖の轎班頭劉受君の發起にて會員一名より一圓宛を醸出して本會を創立し釀金の利殖を計

り明治十年には早くも百三十圓となりたれば之れにて祭典を行ひ殘金にて土地を買入れ其賤耕料にて祭事を行ふ事として今日に及んで居る所屬財産田〇甲七五〇五賤耕料三十圓なりと

開臺王會

民雄庄民雄

- 祭神 鄭成功
- 會員 二十三名
- 創立 八九十年前
- 例祭 舊曆一月十六日
- 管理人兼爐主 民雄庄民雄
- 許 孝頭

沿革及經理 本島の開拓は鄭成功に負ふ所大なりとて謝恩の爲め廟を建て之れが祭祀を爲し來りたるが明治三十九年地震の爲め廟宇崩潰したれば本會に於て之を祀る事とせり會員は各自五圓宛を出して基本財産とし田〇甲八〇八〇を購入し其收益二十八圓を以て祭事を行つて居ると

油元帥爺會

民雄庄民雄

- 祭神 元帥爺
- 會員 十九人
- 創立 嘉慶年間
- 例祭 舊曆四月廿六日
- 管理人 民雄庄民雄
- 許 金盾

沿革及經理 嘉慶年間同地在住者某が福建省より祭神の像を奉持し來り有志協議の上本會を創立し此地に奉祀する事となしたり而して最初會員より一圓宛を集め五十二圓を得たるも其年の祭事に大部分を費し殘金を以て田〇甲一一四〇を基本財産として買入れ其賤耕料を毎年の祭事費に充て今日に及べるが年收は四圓五十錢位なりと

大帝爺會

民雄庄民雄

- 祭神 保生大帝
- 會員 四十八人
- 創立 光緒元年
- 例祭 舊曆一月十五日、三月十五日、八月十五日
- 管理人 民雄庄民雄
- 何 水生
- 爐主 同
- 何 壽山

沿革及經理 子孫の繁榮と農作物の豊穰を祈らん爲め何永謙の發起にて本會を創立し會員より一圓宛を出し且つ信仰者の寄附も加へて之を利殖し年々祭事を行ひ來つたが光緒十年に至り其蓄積九十六圓に達したれば基本財産として畑三甲一一九五、田〇甲八六一五を

購入し此収益にて祭事を行ひ維持を爲す事とし今日に及びり現在年收五十四圓ありと

五谷王爺會 民雄庄東勢湖

祭神 五谷王
 會員 四十人
 創立 百餘年前
 例祭 舊曆四月廿六日
 管理人 民雄庄東勢湖 蔡龍
 爐主 同 許遜

沿革及經理 當部落の許英發起となり五谷王を信仰すれば幸福を得べしとて百餘年前本會を創立し會員各自一圓宛を醸出し之を他に貸付け利殖を圖る事三十年道光二十一年元利合て一百圓に達したれば之にて田一甲二六二〇を買入れ其収益十五圓を祭事費に充て今日に及んで居ると

保生大帝會 民雄庄東勢湖

祭神 大帝爺
 會員 十三名
 創立 約九十年前
 例祭 舊曆三月十五日
 管理人 民雄庄東勢湖許郷、同許金旺、同許奥喃
 爐主 同 蘇八

沿革及經理 民雄の同大帝を信仰すれば五穀豐饒子孫繁榮すべしとて同庄の許天甲なる者發起して本會を創立し會員より各三圓宛を出金し三十六圓を得之を年二割にて貸付け利子の幾分を祭事費に充て殘部は漸次蓄積したるに道光三十年には百三十一圓となりたれば此年大祭を行ひ其殘金を以て田〇甲五二四〇を購入し其収益を祭事に費充る事としたるか目下年收二十二圓餘ありと

五谷王會 民雄庄竹子脚

祭神 五谷王
 會員 十七人
 創立 四十年前
 例祭 舊曆四月十六日
 管理人 民雄庄竹子脚 何龍

沿革及經理 同地何爾技の發起にて創立し會員各三圓宛を出金して之を利殖し其利息を以て祭事を行ふて居るが現在貸金五十八圓、年利息收入十四圓ありと

媽祖婆會 民雄庄菁埔

祭神 媽祖
 會員 十人
 創立 約四十年前
 例祭 舊曆三月廿一日
 管理人兼爐主 民雄庄菁埔 嚴俊昌

沿革及經理 現爐主の祖嚴道なる者媽祖を信仰し親睦を敦ふする爲め本會を組織し會員は各三圓宛を醸出し之を基本として田地を買入れ其収益にて今日まで本會を維持し來り現所屬財產田〇甲八五〇〇、小作料年八圓ありと

媽祖會 民雄庄牛斗山

祭神 北港媽祖
 會員 十人(同地の劉姓)
 創立 約九十年前
 例祭 舊曆三月廿三日
 爐主 民雄庄鴨母空 劉甲
 管理人 同 牛斗山 劉掌
 沿革及經理 北港媽祖へ拜參するの時間と費用を節する爲め本會を創立したるものゝ如きも詳かならず所屬財產田〇甲三六二〇年收十圓あり祭事費に充當して居ると

觀音娘會 民雄庄牛斗山

祭神 媽祖
 會員 十三人
 創立 約九十年前
 例祭 舊曆二月不定日
 管理人 民雄庄牛斗山郭登源、陳加屎、劉生

沿革及經理 本會は現管理人郭登源の祖父が會員の家族に不幸ありたる場合互に敬吊斡旋を爲し且つ祖先の祭祀を怠らざる様勸告して家運の隆昌を祈る目的の下に創立し會員各自若干金を醸出して土地を購入し之を基本財産として其収益を計り之を以て會の維持を爲す事とし今日に及びり現財產田一甲二二四〇年收三十圓あり祭事費に充てゝ居ると稱するも寄附は七十圓以上ありとの説あり

福德爺會 民雄庄牛斗山

祭神 福德正神
 會員 千二百餘人
 創立 約百年前
 例祭 舊曆四月及八月
 爐主 民雄庄牛斗山 郭漏菴
 管理人 同 郭深海、鄭慧、何明

沿革及經理 本祭神を祀れば福德を享くる事大なり
として郭水福の祖先郭耀海なる者發起し本會を創立し會
員を募り會員より應分の贖金を得て基本財産とし土地
を購入し其收益に依り祭事を行ひ會を維持する事とし
て今日に及べるか現財産は田一甲三六〇〇、畑〇甲四
五七五、池沼五甲二一八〇年收益百餘圓ありと

大帝爺會 民雄庄牛斗山

祭神 大帝爺
會員 七人

創立 約九十年前
例祭 舊曆三月十五日

管理 人 民雄庄牛斗山 賴志慎

沿革及經理 約九十年前現管理人の祖先發起して各
自の健康を祈願すべく本會を創立し會員各一圓を捐出
して基本財産とし田地を購入し之れが收益を以て祭事
を行ふ事として今日に至れり現財産田〇甲一九七〇あ
りと

福德爺會 民雄庄牛斗山

祭神 福德爺
會員 三十一人(同地張、賴兩姓の者)

創立 約百年前
例祭 舊曆八月十五日

管理 人 民雄庄牛斗山 張 騫

沿革及經理 沿革明かならざるも張騫の祖先が發起
して本會を創立し各自幾許か宛を贖金して田地を購入
し其收益を以て會の維持費に充つる事とし今日に及べ
るが現財産は田〇甲三五三五、畑〇甲〇六五〇、年收
十四圓ありと

觀音會 民雄庄牛斗山

祭神 觀音媽
會員 四人(同地郭姓有志)

創立 約二百年前
例祭 舊曆二月十九日

管理 人 民雄庄牛斗山 郭大頭

沿革及經理 本會の沿革縁起不明なり現財産畑〇甲
七〇六五、田〇甲七四一五、年收十圓あり祭事費に充
てゝ居ると

五谷王會 民雄庄江厩店

祭神 五谷王
會員 二十人(同地劉姓有志)

創立 約百三十年前

例祭 舊曆十二月十五日
爐主 民雄庄江厩店 劉 崇
劉 長

劉 崇
劉 長

沿革及經理 曾て同地方に降雨なく農作物枯死し飲
料水缺乏し部落民困憊の極に達したれば五谷王を祀り
雨乞を爲したるに立に降雨あり部落民の喜び一方なら
ず劉泰追なる者發起人となり本會を創立したるか當時
會員の捐金にて基本財産を購入し爾來其收益に依り會
を維持し居れるか現財産は田一甲三八一五年收益三十
圓ありと

五谷王會 民雄庄江厩店

祭神 五谷王
會員 八人

創立 約百年前
例祭 舊曆二月廿四日

管理 人 民雄庄鴨母空 劉 炎

沿革及經理 縁起審かならざるも農作物の豐穰を祈
る爲め本會を創立し各自應分の捐金を爲して基本財産
を購入し其收益を以て今日まで會を維持し來れるが如
し現財産田〇甲二八一〇年收益十七圓五十錢あり

五谷王橋會 民雄庄江厩店

祭神 五谷王
會員 六十一人

創立 不詳
例祭 舊曆十二月二日

管理 人 民雄庄江厩店 劉 老色

沿革及經理 農作物の豐穰を祈る爲め本會を創立し
たるに偶々當地より嘉義に赴く途中に牛稠溪あり降雨
時渡渉困難なるより本會にて架橋し會名を五谷王橋會
と名命せり財産は當初會員の捐金にて田一甲三三八五
を買入此收益を祭事費に充て今日に至れるが年收二十
圓にて會員一同毎年祭日に會食する資に足らざれば會
員を六組に分ち輪番にて會食し居れりと

三界公會 民雄庄江厩店

祭神 三界公
會員 七人

創立 約五十年前
例祭 舊曆十二月十二日

管理 人 民雄庄江厩店 劉 用

沿革及經理 沿革不明なり只だ會には創立以來の所
屬財産あり其收入に依りて維持され居れり現に財産田
〇甲六一七〇年收二十圓ありと

三山國王會

民雄庄江厩店

祭神 三山國王

會員 二十四人

創立 約二百年前

例祭 舊曆二月廿四日

爐主兼管理人 民雄庄江厩店 劉用

沿革及經理 祭神の信仰者を募りて本會を創立したるものならんも詳細明かならず只だ維持費は創立以來の財産より得る収益を以て支辨し居ると云ふ現在財産田一甲六九五〇畑〇甲三七八五小作料年三十八圓ありと

温陵媽祖會

民雄庄江厩店

祭神 温陵媽

會員 十一人

創立 約百三十年前

例祭 舊曆三月廿一日

爐主 民雄庄江厩店

管理人 同 劉長 賴結

沿革及經理 沿革不詳、維持は會創立の當時より田〇甲五四九五の基本財産を有し其収益年三圓五十錢あり之を以て費用に充當して居ると小作料の収益甚だ少なきか如しと

九天玄女會

民雄庄江厩店

祭神 九天玄女

會員 二十八人(同地劉姓有志)

創立 明治元年頃

例祭 舊曆四月八日

爐主及頭家 民雄庄江厩店劉然、劉杉、劉得信

管理人 同 劉正

沿革及經理 明治元年頃會員の無病息災を祈る爲め現管理人の祖父主唱して本會を創立せり最利會員の捐金にて田一分を買入れ其収益に依り會を維持し來れるが明治二十五年頃より水利不便の爲め耕作希望者なく收入悉無となり祭事費、維持費其他總て會員の喜捨に據つて居ると

福德爺會

民雄庄江厩店

祭神 福德爺

會員 五十一人

創立 約百十數年前

例祭 舊曆二月二日

爐主 民雄庄江厩店

管理人 同 劉老色 劉作三

沿革及經理 創立の沿革明かならざるも會員の福利増進を祈願する爲め創立せるものゝ如く會の維持は基本財産の収益を以て充當して居る財産は田〇甲二一三〇畑〇甲二三二五年收入八圓あり別に建物敷地〇甲〇五一〇ありしも江厩店警察官派出所用地に寄附せりと

老五谷王會

民雄庄江厩店

祭神 老五谷王

會員 十六人

創立 百十數年前

例祭 舊曆四月廿六日

爐主 民雄庄江厩店

管理人 同 劉老色 劉藤

沿革及經理 百十餘年前劉向榮等主唱して本祭神を祀り農作の豊穰を祈り併せて會員の親睦を計らんとて本會を創立せり而して當初會員の捐金十六圓を以て土地を買ひ基本財産として其収益を祭事費に充つる事とし今日に及びり現在田〇甲三七六六年收六圓ありと

大衆爺轎會

民雄庄江厩店

祭神 大衆爺

會員 十七人

創立 約百六十年前

例祭 舊曆二月三日

爐主兼管理人 民雄庄江厩店 劉守猷

沿革及經理 往時當地に清國守備隊駐在し或る日土匪の襲撃に逢ひ應戦に努めたるも隊員悉く戦死せり、劉守猷此遺策を慰むる爲め庄民と謀り本會を創立し當初會員より金一圓宛を捐出し基本財産として田地を購入し其収益を以て毎年の祭事費に充て今日に至れり財産田一甲四一二五年收十圓ありと

三山國王會

民雄庄江厩店

祭神 三山國王

會員 二十五人

創立 約二百年前

例祭 舊曆二月廿四日

爐主 民雄庄江厩店

管理人 同 劉然 劉用

沿革及經理 單に約二百年前の創立なりと云ふのみにて沿革等一切不明なり維持費は基本財産の収益を以て充當して居るか現財産は畑〇甲七六一五年收十五圓ありと

文昌會

民雄庄田中央

祭神 文昌
 會員 二人(郭姓の者)
 創立 約二百年前
 例祭 舊曆二月十五日
 爐主兼管理人 民雄庄田中央 郭 辨
 沿革及經理 現管理人郭辨の祖先が土地を購入し基本財産として本會を組織せりと云ふの外一切不明なり
 現財産田〇甲二五五年收益六圓三十錢ありと

滿年會 民雄庄田中央

祭神 なし
 會員 十八人
 創立 明治二十二年
 例祭 舊曆一月一日
 管理人 民雄庄田中央 魏 廷

沿革及經理 或る事情に依り畑三分七厘四毛五系が極めて安價に手に入るより自然競争を生じ何れにも買却が極まらず遂に何根賦、魏廷の兩人發起にて神明會を組織し之を買收し祭祀公業として本會を創立するに至りたるものにて其收益金年六圓は會の維持費に充てゝ居ると

新庄三界公會 民雄庄田中央

祭神 三界公
 會員 十人(同地郭姓有志)
 創立 約二百年前
 例祭 不明
 管理人 民雄庄田中央 郭 學

沿革及經理 現管理人郭學の祖先が創立せりと云ふの外沿革不明なり維持方法も會に於て従前より所有する財産の收益に依ると云ふの外詳細かならず財産田〇甲四一六〇年收七圓ありと

新庄福德爺會 民雄庄田中央

祭神 天 公
 會員 十六人
 創立 約九十年前
 例祭 舊曆不定日
 爐主 民雄庄田中央郭元、同陳音
 管理人 同 賴 古

沿革及經理 部内の安寧を祈願する爲め現管理人の祖先が創立したるを以て代々管理人に推薦すと云ふの外不明なり會の維持は創立以來所屬財産の收益に依り維持し居れるが現財産は田二分餘ありと

郭媽祖會 民雄庄田中央

祭神 なし
 會員 六人(同地郭姓の有志)
 創立 約百十餘年前
 例祭 舊曆不定
 管理人 民雄庄田中央 郭 菊

沿革及經理 本會は別に祭神を存せず祭事を行ふにあらず只だ會創立當時よりの所屬財産田六分餘を祭祀公業として共存せん爲めに創立されたる者の如く會の維持は其收益を以て充てゝ居ると

山脚福德爺會 民雄庄鴨母空

祭神 福德爺
 會員 四人(同地劉姓有志)
 創立 約百十餘年前
 例祭 舊曆三月三日
 管理人 民雄庄鴨母空 劉海瑞

沿革及經理 會員の幸福を増進し農作物の豊穰を祈るべく本會を創立し會の所有財産田一分四厘三毛を會員輪番にて賤耕し小作人は税金及祭典用の豚肉代(一圓)を支拂ひ殘金は賤耕者の收得とする取極めである

大帝爺會 民雄庄鴨母空

祭神 大帝爺
 會員 八人
 創立 約百十餘年前
 例祭 舊曆三月十五日
 管理人 民雄庄鴨母空土名双福 黃 清

沿革及經理 創立の沿革審らかならず會は最初より所屬財産を有し其收益を會の維持費に充て今日に及んで居る所屬財産田〇甲二四一五、年收益五圓ありと

三界公會 民雄庄鴨母空

祭神 三界公
 會員 十七人
 創立 約七十年前
 例祭 舊曆一月十五日
 爐主 民雄庄鴨母空 盧 仁 定
 管理人 同 盧 頭

沿革及經理 部落内の武勇を尙ぶもの集まりて本會を創立し當初會員釀金して財産を作り其收益に依り今日迄會を維持し來れり所屬財産田〇甲一四五〇年收六圓五十錢あり創立幹旋者は現管理人の祖先なりと

三界公會 民雄庄鴨母壑

祭神 三界公
會員 九十人

創立 約九十年前

例祭 舊曆一月十五日

管理人 民雄庄鴨母壑 盧仁定

沿革及經理 武勇を尙ぶ同地の有志が相謀りて本會を組織したるものにして本會創立に幹旋せるは盧仁定の祖先なり、會の維持は其所屬財産の收入を以て充當し居れるも時に不足を生ずる場合あり信徒の任意寄附を仰いで居ると現財産建物敷地○甲四四四五年收二十四圓ありと

石橋福德爺會 民雄庄鴨母壑

祭神 福德爺
會員 八人

創立 約百餘年前

例祭 なし

管理人 民雄庄鴨母壑 劉炎

沿革及經理 元江厝店より鴨母壑に通ずる道路の途中に橋梁あり屢々破損して交通困難なるより兩部落の有志相謀りて石橋を架設する事とし寄附を募り之れにて石橋を架設し殘金を以て田地○甲四〇三五を購入し本會を創立せり而して右田地の年收益は十二圓五十錢に及び維持費に充てゝ居ると

福德爺會 民雄庄鴨母壑

祭神 福德爺
會員 八十人

創立 約百十餘年前

例祭 舊曆八月十五日

管理人 同 民雄庄鴨母壑 蔡通 盧陣

沿革及經理 創立の沿革其他一切不明なり只だ所屬財産畑○甲一六三〇年收一圓五十錢を有し會を維持して居ると

三界公會 民雄庄崙子頂三三六

祭神 三界公
會員 四十一人(同地鄭姓の者)

創立 同治九年九月頃

例祭 舊曆十一月中

管理人 同 民雄庄崙子頂 鄭泉 鄭芳翠

沿革及經理 本會は元別溝境の鄭姓の者に依り組織

され當時會員一人十圓宛を贖金して基本財産を作り其收益に依り祭事を行ひ今日に至つたものにして所屬財産田一甲二九一〇年收四十圓ありと

元帥爺會 民雄庄崙子頂

祭神 元帥爺
會員 百人(同地鄭姓の有志)

創立 康熙四十年頃

例祭 舊曆每年末

管理人 同 民雄庄崙子頂 鄭格斌 鄭連登

沿革及經理 元打猫街舊南路厝庄廟の祭神を康熙五十年頃鄭士龍の發起にて一年一回土庫仔に迎へ禮拜して南路厝の騎虎王廟に奉迎する爲め創立し維持は土地の收益に依りて維持す所屬財産田○甲三八一〇年收十二圓あり

虎尾寮土地公會 民雄庄崙子頂

祭神 土地公
會員 五十人

創立 明治三十四年頃

例祭 舊曆八月十五日

管理人 同 民雄庄崙子頂 何志順

沿革及經理 明治三十四年土地調査の際同庄原野一甲七分承認者なく調査委員黃園名義にて申告し土地公埔と名付け同土地の公會を創立し申告の費用は黃園負擔せり而して右土地の内○甲八九一二を田に開墾して小作料三十二圓を徴收し會の維持費に充てゝ居ると

福德爺會 民雄庄大崎脚

祭神 福德爺
會員 五十人(同地蕭姓の有志)

創立 不詳

管理人 同 民雄庄大崎脚 蕭田

沿革及經理 現管理人蕭田の祖先蕭清隱なる者本祭神を祀れば農作物の増收疑なしとて本會を組織したり所屬財産は如何にして造成したるや不明なるも現在田○甲八七六〇年收二十五圓あり維持費に充當して居ると

上帝爺會 民雄庄大崎脚

祭神 上帝爺
會員 五十人(同地蕭姓の有志)

創立 約二百年前

例 祭 なし

管理 人 民雄庄大崎脚

蕭 田

沿革及經理 現管理人の祖先清隱なる者支那より本祭神を迎へ來り本會を創立したる者にして最初同姓の七戸より粟五斗宛を出して基本財産田〇甲四六八〇を買入れ爾來其收入に依りて會を維持し居れりと

大賽爺公會

民雄庄大坵園

祭 神 大賽爺公

會 員 六十人

創立 不詳

例 祭 舊曆五月五日

管理 人 民雄庄大坵園

林 進

沿革及經理 初め本會は同地邱姓の兄弟に依りて創立されたるも同姓は絶戸し現管理人林進の祖先之を引受け爾來混合姓にて會を維持し來れり會には最初財産なかりしも林進の祖先が引受けたる時會員各級二斗を出し基本財産を購し其收益を祭事費に充て今日迄で維持し來る現基本財産田〇甲六六三五年收穀三石五斗ありと

五谷王會

民雄庄塗樓

祭 神 五谷王

會 員 二十人

創立 約九十年前

例 祭 舊曆十一月三日

爐 主 民雄庄江厩店

賴 厚 壁

沿革及經理 會員の幸福と作物の豐穰を祈る爲め有志相諮りて本會を創立し會員各自應分の出金を爲して二十餘圓を得之れを基本財産として畑地を買入れ其收益を以て祭事を行ひ會の維持費に充て、居る所屬財産不明

元帥爺會

新巷庄西庄

祭 神 元帥爺

會 員 三十五人(同地何姓の有志)

創立 約四十年前

例 祭 舊曆九月十一日

爐 主 新巷庄西庄

何 鼻

沿革及經理 沿革不詳、年々會員各自捐金して維持費に充つと

媽祖婆會

新巷庄西庄

祭 神 媽祖

會 員 二十八人

創立 約六十年前

例 祭 舊曆三月廿三日

爐 主 新巷庄西庄

何 選

沿革及經理 新巷媽祖他に巡行の時轎を昇ぐを目的として同庄の何吉發起となり創立せる會にして何等財産を有せざるを以て維持費は會員各自の鹽金に依ると

開臺王會

新巷庄西庄

祭 神 開臺王

會 員 二十四人

創立 三十五年前

例 祭 舊曆一月十六日

爐 主 新巷庄西庄

何 烏

沿革及經理 同庄何某の發起にて創設されたるも何等財産等なきを以て維持費は必要に應じ會員各自讓出して居ると

五媽會

新巷庄海豐子

祭 神 五媽祖

會 員 五十六人

創立 不詳

例 祭 舊曆三月廿四日

爐 主 新巷庄海豐子

王 李

沿革及經理 本會は新巷媽祖を信仰し其加護に依り五媽と稱する國庫所屬の荒蕪地に貯水し之を一般耕地に引用し作物の増加を計る目的にて創立されたり而して同埠の修繕費は會員各自の負擔なりと

三界公會

新巷庄海豐子

祭 神 三界公

會 員 二十二(同庄元潭底子の住民)

創立 不詳

例 祭 舊曆一月十五日

爐 主 新巷庄海豐子

何 肉

沿革及經理 家内の安全と會員の親睦を敦ふる目的にて創立す財産として祠廟敷地〇甲二七八〇、田〇甲四一八四、池〇甲一七八〇年收十一圓を有し其收益を祭事費維持費に充て、居ると

李王爺會

新巷庄新巷

祭 神 李王爺

會 員 三人

創立 約六十年前

例 祭 舊曆四月廿六日

盧主任管理人

吳三云

魯庄公會

新巷庄新巷

爐主兼管理人

吳三云

沿革及經理 同地林慶、吳邊兩名の發起にて兒童の健全なる發育を祈る爲め本會を創立し當初會員各四圓を醸出して基本財産を作り其收益を維持費に充てゝ居る財産田〇甲六一〇〇年收六圓ありと

金福安會 新巷庄新巷

祭神 媽祖
會員 十六人

創立 百十數年前

例祭 舊曆三月廿三日

爐主 新巷庄新巷 劉 勝

沿革及經理 縁起詳細明かならざるも新巷媽祖の神輿を昇げば加護多しとて同庄有志相謀りて本會を組織せるものらしく財産として畑一甲二二六〇年收二十八圓を有し祭事費維持費に充てゝ居る

虎爺會 新巷庄新巷

祭神 虎爺
會員 四十人

創立 道光年間

例祭 舊曆六月六日

爐主 新巷庄新巷 謝大頭

管理人 同 蔡見福

沿革及經理 媽祖行列の先鋒を承まはる虎爺の神輿を昇げば其年は好運にして災厄を免かるゝとの傳説に依り同街の有志本會を創立したるも明治四十四年頃までは確たる會員なく單に名義のみなりしを蔡見福、李首の兩人新たに會員を募り再興を計り會員各一圓宛を醸出して費用に充て維持費は隨時會員より醸出する事として會を維持して居ると

友文社 新巷庄新巷

祭神 文昌帝君
會員 十六人(秀才以上の者)

創立 咸豐年間

例祭 舊曆二月三日

爐主 新巷庄月眉潭 林宮然

管理人 同 新巷 林瑞胸

沿革及經理 同地の文士林春培、林錫金、蔡清宵、何朝東等發起し秀才以上の資格を有する者を集め互に親睦を敦ふし兼て學藝の研究を爲す爲め本會を創立し會員の醸金にて田一甲弱を買入れ基本財産とし其收益を維持費に充つ事としたるが年收益三十二圓ありて不足の場合には會員各自負擔して居ると

魯班公會 新巷庄新巷

祭神 魯班公
會員 十六人

創立 道光年間

例祭 舊曆五月七日

爐主 新巷庄新巷 謝清

管理人 同 何銘銓

沿革及經理 魯班公は木工の神なれば之れを祀りて其恩澤に與からんとて同地の棺木工等協議の上本會を創立し毎年祭祀を行ふ事としたるに年を閱するに従ひ漸く衰頹の狀ありしより明治二十年何銘銓、邱番、徐慎の三名主唱の下に祭典を盛大に行なはんとて會員各自一圓宛を出金し久し振りにて盛大なる祭事を行ひ爾後祭日に芝居を行ふ時は會員各一圓、祭典のみの時は五十錢宛を出金する事として祭祀を復興せりと

大道公會 新巷庄新巷

祭神 保生大帝
會員 百四十四人

創立 乾隆年間

例祭 舊曆三月十五日

爐主 新巷庄新巷 楊 呆

管理人 同 蔡 勝

沿革及經理 本祭神を祀れば病氣の平癒に靈顯ありとて信仰者協議の上本會を創立したるものゝ如く創立當時より其本財産として土地畑一甲四一五五、年收五十八圓を有し毎年祭事を行ひ本會を維持し來れり尙明治三十九年頃より林維朝、林添有、何銘銓等専ら本會の爲め盡碎し居れりと

東班四街媽會 新巷庄新巷

祭神 祖媽
會員 十六人

創立 嘉慶年間

例祭 舊曆三月廿三日

爐主 新巷庄新巷鄭標、同郭榮

管理人 同

沿革及經理 本會は同地の媽祖廟創立と同時に創立され媽祖の神徳に對し感恩報謝の意味を以て祭典に神輿を昇ぎ併せて媽祖の加護を願ふ者にして創立の際會員應分の醸金を爲し畑七分餘を買入れ其收益を以て維持費に充つる事として今日に及びたるか明治四十年新巷公學校新築の際所屬地の一部を同校敷地に寄附し現在畑〇甲六三四五年收益十六圓となり聊か維持費に不足を生ずる事あり會員任意寄附すと

西班牙四街媽會 新巷庄新巷

祭神 媽祖
會員 二十四人

創立 嘉慶年間

例祭 舊曆三月廿三日

爐主 新巷庄新巷

管理人 同 林富 陳友

沿革及經理 創立の縁起は大體東班四街媽と同様に會員は創立の際各一圓宛を醸出し之を基本財産として利殖を計り會を維持し來りたるが光緒五年頃此基金を以て土地畑〇甲二二三五を買入れ其收益を以て維持費に充つる事としたるか其收益は年三圓位にて常に維持費の不足を告ぐるより會員は其都度應分の醸金を爲して之を維持し居れりと

國姓爺會 新巷庄新巷

祭神 鄭成功

會員 四十五人(同地鄭姓のもの)

創立 明治四十五年

例祭 舊曆一月十六日

爐主 新巷庄新巷

沿革及經理 同地の鄭朗如、鄭標、鄭塗の發起にて創立し會員各金四圓宛合計百四十圓を出して基本金とし之を他に貸付け其利息を以て祭事を行ひ會の維持を爲すと

蘭盆會 新巷庄新巷

祭神 無縁の靈魂

會員 四十餘名

創立 嘉慶年間

例祭 舊曆七月十八日、同廿八日

爐主 新巷庄新巷

管理人 同 周東明 林甲炳

沿革及經理 施主なき無縁の魂を呼び之を慰むれば功德を受くべしとて會員協議の上本會の創立を見たる者らしきも詳細明かならず而して明治十二年頃には祭典漸く衰へ或は會の絶滅を氣遣はしめたるが偶々林春培、林慶等發起して再興を計り會員より數百圓の醸金を募り在來の剩餘金を併せて盛大なる祭典を行ひ其殘金を基本財産として田一甲四五五を買入れ其小作料年三十圓を以て祭事費維持費に充て居ると

土地公會 新巷庄埠頭

祭神 土地公
會員 五人

創立 約百十餘年前

例祭 舊曆八月十五日

爐主 新巷庄埠頭

管理人 同 董長 董似

沿革及經理 農作物の豊收と會員の幸福を祈願する爲め本會を創立し會員一人に付二圓宛を集め十圓を得て之を他に貸付け利殖を圖り其蓄積金を以て畑三分を買入れ之を基本財産として其收益(年三圓位)を以て祭事を行ひ今日に及んで居ると

王爺會 新巷庄埠頭

祭神 七王爺

會員 五人

創立 約百三十年前

例祭 舊曆十一月十五日

爐主 新巷庄埠頭

沿革及經理 同地董良なる者の發起にて創立され所屬土地の收益に依り今日迄維持し來れり而して其所屬土地畑一甲一四七〇、田一甲四八六〇年收益二十一圓ありと財産造成經過不明

上帝爺會 新巷庄舊南港

祭神 關帝爺

會員 五人

創立 約百十數年前

例祭 舊曆五月十二日

爐主 新巷庄舊南港

沿革及經理 同庄の許柴の祖先が發起して本會を創立したるものなりと云ふも明かならず本會には別に財産なきを以て祭事費維持費は會員より隨時醸出して居ると

竹筏會 新巷庄舊南港

祭神 地藏王、媽祖

會員 三十六人(北港二十人、舊南港十六人)

創立 約三百年前

例祭 舊曆七月廿三日

爐主 新巷庄舊南港

沿革及經理 本會の祭神を祀ると云ふは名義のみにて實は北港溪の渡船業を營み其收益金年百三十圓内外を會に收めんとするものにして其收益金を例祭の費用及會の維持費に充つると云ふ

祭神 土地公
會員 五人

齋班會 新巷庄板頭厝

祭神 媽祖
 會員 十人
 創立 約六十年前
 例祭 舊曆三月廿三日
 管理人 新巷庄板頭厝 施廣
 沿革及經理 創立緣起明かならず只だ會員は本會創立の際二圓宛を醸出し之れを基本金として他に貸付け其利息を會の維持費に充て今日に及んで居ると云ふの外詳細不明

五媽會 新巷庄大潭

祭神 金順安
 會員 五十人
 創立 約五十年前
 例祭 舊曆三月十六、十七日
 管理人 新巷庄大潭 王傳興
 沿革及經理 部内の安穩と會員の無事息災を祈る爲め林包、鄭生等發起となり本會を創立し會員より夫々應分の寄附を仰ぎ維持費に充てたり尤も本會は五媽の齋班會にて神輿臺南等遠方を巡行する時は會員は義務として其列に加はる事となり若し之に反く時は二圓の罰金を徴せらるゝなどの規約あれど今は夫れ程嚴重には勵行され居らずと

曾大富 新巷庄古民

祭神 富
 會員 三十人(同地曾姓の者)
 創立 不詳
 例祭 舊曆八月十五日、十一月十五日
 管理人 新巷庄古民曾大、同會永生
 沿革及經理 往時支那より曾大富なる者渡來し當地に居を構え窮民を救ひ病者を治療し庄民より多大の信賴を受けしが遂に當庄に病歿せり庄民其德を慕ひ特に曾姓の者集まり曾大富と尊稱し神として奉祀する事とせり所屬財産は會員の寄附もあり又た曾大富の財産もありて相當多額に上り居れり乃ち所屬財産田二甲五分畑十甲〇一四〇、年收益八十四圓ありと

頂角松王會 新巷庄古民

祭神 三山國王
 會員 三十五人
 創立 不詳
 例祭 舊曆二月廿五日、十一月五日
 管理人 新巷庄古民 郭潭

沿革及經理 三山國王廟の神輿を昇ぐに甚だ困難なりしを以て同廟前の松樹を倒ほし之れにて神像を刻み頂角松王會と名付けて奉祀せりとの傳説あるのみにて沿革等不明なり明治三十九年の大震災前は所屬の田畑により會を維持し來りたるも大震災に三山國王廟倒壊し之れが修繕費用として該田畑を賣却し同廟の修繕費に寄附したれば今は財産なく維持費は必要に應じ會員より醸出すと

下角松王會 新巷庄古民

祭神 三山國王
 會員 三十三人
 創立 不詳
 例祭 年二回不定日
 管理人 新巷庄古民 郭潭
 沿革及經理 三山國王の神輿を昇ぐに神輿大に過ぎ齋班何れも困難を極めたれば同廟前の松樹を切り倒し之れにて神像を刻み下角松王會と名つけ之を奉祀し庄民より二百五十圓を醸出して本會を創設したるものにして本會は無財産なるが故に會員は年十五圓宛位の負擔にて今日迄維持し來れりと

太子爺會 新巷庄埤子頭

祭神 太子爺
 會員 二十七人
 創立 明治四十三年
 例祭 舊曆九月九日
 爐主 新巷庄埤子頭 陳福
 沿革及經理 本會は埤子頭の劉興なる者が同志を集め太子爺を奉祀する爲め創立したる者にして當時會員より幾許かの寄附を仰ぎたるも財産として殘すに足らず會員は毎年維持費を負担しつゝありと

玄天上帝會 新巷庄埤子頭

祭神 上帝爺
 會員 三十二人
 創立 不詳
 例祭 舊曆二月廿九日
 爐主 新巷庄埤子頭 方知母
 沿革及經理 同地の李獅、方知母等の祖先が創立せりと云ふのみにて沿革不明會なりの維持費は必要に應じて會員出金し居れりと

江太會 新巷庄潭子墩

祭神 江太

會 員 七人
 創立 不詳
 例 祭 舊曆十二月廿一日
 爐 主 新巷庄潭子墩 杜正
 管理人 同 江喜
 沿革及經理 江姓の祖先江東岸なる者順治年間觀察副憲衛に擧げられ清朝に對し武功あり後人其遺風を慕ひ江大會を起し祭事を行ふ即ち本會の如き其一にして創立年代等不明なるも創立以來基本財産として田〇甲五六一五年收五圓を有し祭事費維持費に充てゝ居ると

太子爺會 新巷庄溪北

祭 神 太子爺
 會 員 六人
 創立 不明
 例 祭 舊曆九月三日
 爐 主 新巷庄溪北 林吉
 管理人 同 林漢
 沿革及經理 庄内上帝爺廟内に奉祀せる太子爺を信仰する爲め林吉等の祖先が發起創立したる者なりと云ふも年代其他不明なり會は畑〇甲一五九〇を有し其收益を維持費に充てゝ居る

上帝爺會 新巷庄溪北

祭 神 上帝爺
 會 員 十七名
 創立 不詳
 例 祭 舊曆三月三日
 爐 主 新巷庄溪北 蔣筠
 管理人 同 殿安全
 沿革及經理 同地住民の祖先が移住の際奉持し來り信者十七名を以て祭祀を行ひ來りたるが其後信者増加し建廟奉祀する事となりたるも當初より奉祀せる團體は依然會を維持し祭祀を行つて居ると所屬財産畑二甲〇二一〇年收益四十圓ありと

上帝爺會 新巷庄溪北

祭 神 上帝爺
 會 員 六人
 創立 不詳
 例 祭 舊曆九月三日
 爐 主 新巷庄溪北 楊添
 管理人 同 林漢
 沿革及經理 庄内に奉祀せる本祭神を信仰する者十數名が集まりて本會を創立せりと云ふも何等記録の由

るべきなし所屬財産畑一甲二〇〇五(年收十八圓)は當初より本會所屬として維持費に充當して居ると

觀音會 新巷庄溪北

祭 神 觀音佛祖
 會 員 三十人
 創立 不詳
 例 祭 舊曆二月十九日
 爐 主 新巷庄溪北 張天賜
 管理人 同 民春
 沿革及經理 最初の移住民が奉持し來り本會を組織し祭事を行ひ來りたるを後祠を建て祭神を奉祀する事としたるも會は依然として祭事を繼續し來れるものにして現所屬財産貸付金二十圓(年利息五圓)あり維持費に充てゝ居ると

康濟明王會 新巷庄月眉潭

祭 神 康濟明王
 會 員 十八人
 創立 不詳
 例 祭 舊曆十一月廿二日
 爐 主 新巷庄月眉潭 林註
 管理人 同 林常
 沿革及經理 本祭神は二百五十年前林某が當地移住の際奉持し來り爾來信者のみにて巡次爐主となり祭事を行ひ來りたるが某年當番爐主宅不詳事多く神體餘りに古びたる爲めなるべしとして新調せるに不詳事絶滅せり會は當初より所屬財産畑〇甲四九〇〇を有し其收益を以て維持費に充當し來れりと

大帝爺會 新巷庄月眉潭

祭 神 大帝爺
 會 員 三百人(最初林姓のみなりしも後雜姓と混合せり)
 創立 乾隆三年
 例 祭 舊曆七月廿五日
 爐 主 新巷庄月眉潭林火炎、同林妙
 管理人 同 林丙辰
 沿革及經理 當地林泉の祖先が漳州より奉持し來りたるものにて當庄の敵天大帝と其祖を同ふするものなりとの理由にて明治四十年改築の敵天大帝廟に配祀したるも會は今も尙ほ存續し祭事費は會員の平等支辨とし維持費は敵天大帝廟の維持費に由つて居ると

玄天上帝會 新巷庄中洋子

祭神 玄天上帝
 會員 十一名
 創立 約百十餘年前
 例祭 一定せず
 爐主 新巷庄中洋子 葉 崔
 沿革及經理 當地の李某が漳州より奉持し來り本會を創立して盛大なる祭典を行ひたりと云ふも狀況審かならず所屬財産田〇甲五五二〇は李が本會に寄附せるもの其收益に依り本會を維持し居れり

關帝君會 溪口庄溪口

祭神 關帝君
 會員 六人
 創立 明治十二年
 例祭 定日なし
 管理人 溪口庄溪口 張進文

沿革及經理 當地の張世梅、張濱澄、詹俊英、張伯情、郭興丁等が商業上の主護神として本會を創立し本神を祀る事としたるものにして當初會員各十圓宛を贖出し土地を購入し其收益を以て祭事費維持費に充つる事とせり所屬財産田一甲〇三三〇、畑一甲九五二〇(年收益八十五圓)あり祭事費維持費に充てゝ居ると

上帝爺轎班會 溪口庄溪口

祭神 玄天上帝
 會員 六人
 創立 同治四年
 例祭 舊曆一月十五日、三月三日
 管理人 溪口庄溪口 張進文

沿革及經理 同治四年當地郭桂起外九名協議の上上帝爺祭の擔轎人夫賃を庄民より徴收するは困難なるより其救済策として本會を創立し各自金十圓宛を出して所屬財産の土地を買入れ其收益にて會を維持し餘剩あれば會員に分配すると現財産田〇甲九五三五(年收益三十八圓)ありと

陳聖王會 溪口庄溪口

祭神 陳聖王
 會員 十七人(同地陳姓のもの)
 創立 安政四年
 例祭 舊曆二月十五日
 管理人 溪口庄溪口 陳 祥

沿革及經理 同地陳姓の祖先等が支那より奉持し來り安政四年頃陳天福、陳祥、陳鏡、陳諸君、陳亨、陳根、陳連霧、陳道、陳焯爐、陳成、陳鍼、陳龍、陳氏

香、陳鵬、陳賞、陳千、陳財福等出資して利殖を圖り後ち土地を買入れ其收益にて祭事を行ひ來りしが明治四十二年其土地を賣却し代金二百四十圓を會員に分配し現維持費は其以前よりの殘金百二十五圓の利息を以て充當し居れりと

巷子樟王爺會 溪口庄溪口

祭神 樟王爺
 會員 六人
 創立 嘉永元年
 例祭 舊曆一月十五日
 管理人 溪口庄溪口 曾老彭

沿革及經理 同地の曾姓、張姓の者互に出資して樟王爺を祀り兼ねて蓄財の爲め本會を組織したるも明治二十八年兵火に罹り祭神焼失したれば爾後祭事を廢し居れり出資金は創立後他に貸付利殖を圖り後ち基本財産として土地を買入れ其收益を以て祭事を行ひ利餘金は分配し來りたるか祭事廢止後は毎年十一月冬至に收益を計算して會員に分配し居れりと財産田二甲八〇六〇、池沼〇甲三五九五年收益百十三圓餘あり

大衆爺中元會 溪口庄溪口

祭神 なし
 會員 五十五人
 創立 嘉永元年
 例祭 舊曆七月十四日
 管理人 溪口庄溪口 劉天遠

沿革及經理 當地劉姓二十六、張姓十六、邱姓九、陳姓四協議の上平等に出金し毎年祭典を行ふ爲め本會を創立し出資金を貸付け利息を會の維持費に充て來りたるか文久三年頃土地を買入れ其收益を維持費に充て今日に至ると財産田一甲一六六五、畑〇甲五四三五(年收益八十一圓)餘ありと

中元會 溪口庄溪口

祭神 なし
 會員 十人
 創立 慶應三年
 例祭 舊曆七月十五日
 管理人 溪口庄溪口 張象時

沿革及經理 當地の張姓郭姓の者の祖先が孤魂を祭る爲め本會を創立せり創立當時會員各一圓宛を出資し利殖を圖り明治十年頃土地を買入れ其收益を維持費に充てる事として居る現財産田三甲八二七八年收益百六十圓ありと

聖母會 溪口庄溪口

祭神 聖母

會員 七人

創立 弘化四年

例祭 舊曆三月廿四日

管理人兼爐主 溪口庄溪口崙尾 林平

沿革及經理 會員の幸福と平安を祈る爲め本會を組織し各自應分の出資を爲し之を貸付けて利殖を圖り後ち基本財産として土地を買入れ其收益を以て會の維持費に充て、居る所屬財産田〇甲一八五五年收益五圓ありと

孝子會 溪口庄溪口

祭神 支天上帝

會員 十二人

創立 文政八年

例祭 舊曆三月三日

管理人 溪口庄溪口 張瓦

沿革及經理 本會は會員の父母、祖父母等の死亡の節相互に喪葬費用を補助し且つ三月三日に祭典を行ふ爲め創立したるものにして初め會員にて相當の出資を爲し夫れを利殖して現財産を購入し其收益金にて祭事費及喪葬補助費を支辨して居ると現財産畑〇甲〇八八三、田〇甲三七七五年收十圓ありと

西帝會 溪口庄溪口

祭神 なし

會員 九人

創立 文政八年

例祭 舊曆七月廿九日

管理人 溪口庄溪口 張瓦

沿革及經理 本會は孤魂を祭る爲め創立し會員より應分の基金を集め之を利殖して後土地を買入れ基本財産とし其收益を以て維持費に充て今日に至れるが現財産は畑〇甲〇八八三、田〇甲三七七五年收十圓ありと所屬財産は孝子會と同一なるが如し

三山國王會 溪口庄溪口

祭神 三山國王

會員 七公業

創立 明治三十二年

例祭 舊曆二月廿五日

管理人 溪口庄溪口 張進文

沿革及經理 本會は左記祭祀公業にて大埠頭の三山國王廟に奉祀しある祭神を祀る爲め創立したる者にして従つて會員は該公業派下員たるの觀あり

張鼎萬公、新德公、中元公、張氏先公、作源公、張祿玄公、張名郷公

本會創立の際公業は金十圓宛を支出し土地を買入れ基本財産とし其收益を維持費に充て今日に及ぶと

福德爺會 溪口庄上崙

祭神 福德爺

會員 十人

創立 不詳

例祭 舊曆二月二日

管理人 溪口庄上崙 黃河

爐主 同 賴天送

沿革及經理 沿革經理の狀況不明なるも現に基本財産として畑一甲二六六五、田一甲〇九六〇、建物敷地〇甲四八四五此年收三十圓あり之を維持費に充て、居ると

文昌會 溪口庄崙尾

祭神 文衡聖帝

會員 二十人(同地蔡姓の讀書人)

創立 乾隆四十年

例祭 舊曆二月三日

管理人 溪口庄崙尾 蔡木生

爐主 同 蔡發

沿革及經理 同郷同姓の讀書人協議の上獎學の目的にて本會を創立せり創立の當初會員應分の醴金を爲し基本財産を購入し爾來其收益を以て祭事費維持費に充て、居る財産田一甲一二四〇年收四十圓ありと

天上聖母會 溪口庄崙尾

祭神 天上聖母

會員 十人

創立 弘化四年

例祭 舊曆三月廿三日

爐主 溪口庄崙尾 陳双仁

沿革及經理 農作の豐穰と部内の平安を祈る爲め現會員の祖先が協議の上各二圓宛を出資し本會を創立して土地を購入し其收益を維持費に充て來りたるが明治四十一年土地を賣却し爾來其代金を貸付け利子を以て祭事費に充て、居る貸付金七十圓あり

大士爺會 溪口庄崙尾

祭神 大士爺

會員 崙尾の福建人全部

創立 文政十年頃

例 祭 舊曆七月廿一日
管理人 溪口庄崙尾 陳隆興
爐 主 同 陳 丁

沿革及經理 大士爺及孤魂を祭る爲め創立し當時飼鴨料を貸付け其利息にて祭事を行ひ明治二十二年頃田八分一厘九毛を典に取り其賸耕料を維持費に充て同四十二年該地を返済し代金百四十圓を會の基本財産とし他に貸付け其利子を以て祭事を行ふて今に至れりと年利三十三圓ありと

五谷王會

祭 神 五谷王
會 員 九人
創立 天保八年頃
例 祭 舊曆四月廿六日
爐 主 溪口庄崙尾 陳 枝

沿革及經理 農作物の豐作を祈る爲め會員を募り應分の出資を求め本會を創立し出資金にて畑三甲五五〇〇を買入れ會の基本財産とし其收益を以て維持費に充て來りたるが其後財産中より一甲二分を處分し現在は一甲三五〇〇あり年收十八圓となれりと

保生大帝轎班會

祭 神 保生大帝
會 員 二十三人
創立 文化十四年
例 祭 舊曆三月十四、十五日
爐 主 溪口庄溪口 吳傳枝

沿革及經理 本會は毎年三月十四、十五の兩祭日に保生大帝の神輿を擔ぎ庄内を巡行する爲め創立せる者にして最初現會員の祖先等が應分の出資を爲し之を利殖して土地を買入れ其收益を祭事費に充當し今日に至れり財産田一甲二〇五五年收十四圓あり

土地公會

祭 神 土地公
會 員 七人(同地劉姓)
創立 乾隆五十年
例 祭 舊曆不定日
管理人 溪口庄三疊溪 劉弄毛

沿革及經理 乾隆五十年劉再慶同志と協議し釀金の上土地を買入れ本會を組織せり祭事費は凡て右の土地賸耕料を以て之に充て今日に及ぶ所屬土地畑一甲三八三一年收益十八圓ありと

元帥爺會

祭 神 元帥爺
會 員 四十人(下員林の農業者)
創立 不詳
例 祭 舊曆九月七日
管理人 溪口庄三疊溪 彭自悵

沿革及經理 毎年打猫の騎虎王の分香を受けに行く費用支出の爲め黃河南、彭三基協議の上創立、當初會員各自一圓宛を出金し之を利殖し利子を維持費に充てたるが後土地を購入し小作料を其費用に充て今日に至る現財産畑〇甲四一七五、建物敷地〇甲〇〇九五、此年收三圓なりと

大士爺會

祭 神 大士爺
會 員 七人(當地劉姓の者)
創立 乾隆五十年
例 祭 舊曆七月廿五日
管理人 溪口庄三疊溪 劉弄毛

沿革及經理 劉爾慶等の發起にて創立し夫れ以來所屬財産(造成の沿革不明)田〇甲三三九二年收入八圓を以て會を維持し來れりと

大帝爺會

祭 神 大帝爺
會 員 九人
創立 不明
例 祭 不定日
管理人 溪口庄柳子溝 曾 考

沿革及經理 乾隆年間本廳の保生大帝より分香せりと云ふの外不明經營は所屬財産の收入に依るものなるが現財産は田〇甲三二九五年收六圓ありと

土地公會

祭 神 土地公
會 員 十六人
創立 明治二十九年
例 祭 舊曆八月十五日
沿革及經理 同地賴烏秋等の發起にて創立し會員一圓宛を支出して基本財産として之を他に貸付け其利子を以て維持費に充て、居る財産貸金二十四圓年利子七圓二十錢あり

三界公會

祭 神 三界公

溪口庄柳子溝

會員 四人(蔡長祿、蔡清柳、蔡順忠、黃郡)
 創立 乾隆四十八年
 例祭 舊曆一月十五日
 沿革及經理 當部落の蔡全なる者發起し各應分の出資を得て田地を購入して創立したるが別に管理人を置かず共同耕作して祭事を行ひ今日に至ると

五谷王會 溪口庄柳子溝

祭神 五谷王
 會員 二百人
 創立 乾隆年間
 例祭 舊曆四月廿四日
 管理人 溪口庄柳子溝張昌、同蔡胚
 爐主 同 劉江讀

沿革及經理 乾隆年間の創立なりと云ふのみにて他は不詳、會は創立以來所屬財産の收入に依つて維持して居ると所屬財産田一甲三六三〇年收三十六圓

關帝君會 溪口庄柳子溝

祭神 關帝君
 會員 十五人
 創立 明治三十五年
 例祭 舊曆六月廿四日

沿革及經理 創立者は陳掌、莊全、莊向、莊主慶、莊可等にして各自一圓宛を出金して基本財産として貸付け其利子を以て會を維持し來れり貸付金二十二圓年利子六圓六十錢あり

王爺會 溪口庄柴林脚

祭神 玄天上帝、金王爺、池王爺
 會員 三十六人
 創立 不詳

例祭 舊曆六月十八日
 爐主 溪口庄柴林脚獻王、鄭丁發、陳行
 沿革及經理 庄内の福支宮廟の祭神を信仰する者の創立の如きも詳細不明なり始め會員各自醸金して土地を買入れ基本財産とし其收益を以て會を維持し來れり現在畑二甲西一六〇年收十七圓ありと

天上聖母會 溪口庄柴林脚

祭神 天上聖母
 會員 十九人
 創立 不詳
 例祭 舊曆三月廿三日
 爐主 溪口庄柴林脚

王在

沿革及經理 本會の創立には王阿探、葉吳外十八人が協力せる者の如きも現代より四代前の事とて其事情詳かならず本會に財産畑三甲四七〇三年收益二十二圓あり目下其收益にて祭事費維持費を支辨して居ると

太子爺會 溪口庄柴林脚

祭神 太子爺
 會員 十九人
 創立 不詳
 例祭 舊曆一月九日
 爐主 溪口庄柴林脚 江獻王

沿革及經理 創立者は現在會員の祖先にして當初會員持前一分金二圓を醸出し之を貸付け利殖し後土地を買入れ基本財産とせりと稱するも確實なる記録なし目下右財産たる土地畑〇甲八九六〇年收十四圓を他に貸付け會の維持費に充て、居ると

大師爺會 大林庄大林

祭神 大師爺
 會員 大埔林在住本島人全部
 創立 百餘年前
 例祭 舊曆七月廿一日
 管理人 大林庄大林 簡清碧
 爐主 同 吳財旺

沿革及經理 打猫大師爺の例祭に參詣の途三疊溪泥濘し大林地方よりの參詣不可能なるより其災厄を免かれんとて本會を創立、本祭神に祈願せる者にて當時會員より若干の金員を醸出し土地を購入して基本財産とし其益金を會の維持費に充て、居る創立者は同地吳其庄なり現財産田〇甲二九五五年收二十四圓あり

中元公會 大林庄大林

祭神 三界公
 會員 五十人
 創立 約二百年前
 例祭 舊曆七月十五日
 管理人 大林庄大林 簡清碧
 爐主 同 王福

沿革及經理 所謂孤魂を慰むる爲め施餼鬼を行ふ爲めに創立されたるも一時は有名無實の状態となり居たるを明治元年頃大埔林の黃光全なる者時價四百圓の土地を寄附して再興し爾來其收益を以て會を維持し居れりと現財産田一甲四九二〇年收五十圓餘ありと

福德爺會 大林庄大湖

祭神 福德正神
會員 二十四人
創立 七十餘年前

例祭 舊曆二月二日
謝標

沿革及經理 本會は大湖庄の麴牛なる者の發起にて最初會員各自より五十錢宛を醸出し之を會員中の希望者に貸付け其利子を維持費に充て來れるか現在金百十八圓餘年利息十九圓餘ありと

玄天上帝會 大林庄大林

祭神 玄天上帝(神體なし)
會員 二十一人

創立 不詳

例祭 舊曆三月九日、十日、十一日

管理 人 大林庄大林 簡 喆

沿革及經理 玄天上帝を祭り併せて會員の親睦を圖る爲め創立されたりと云ふも年代不詳にして會の維持は所屬土地の收益を以て充て居るが其所屬土地を如何にして造成せしかは不明なり所屬財産田〇甲六三七五あり

神農聖帝會 大林庄溝背

祭神 なし
會員 九人

創立 明治三十一年

例祭 舊曆四月廿六日

管理 人 大林庄北勢 曾平貴

沿革及經理 本祭神を祀り併せて會員の親睦を圖る爲め曾平貴、江新嶺、簡堯、簡寬亮、簡寬道、江善、江新進、吳鉗、江新鼻の諸氏各金二圓宛を醸金して本會を創立し爾來該金を貸付け利息を以て維持費に充て殘金は繰越して居るか現在貸金九十七圓餘、年利息四圓七十五錢ありと

上帝爺會 大林庄溝背

祭神 なし
會員 十一人(同郷の江姓)

創立 不詳

例祭 舊曆三月九日より十一日まで

管理 人 大林庄溝背 江密獅

沿革及經理 本會は梅仔坑の上帝爺を迎え祀る爲め創立し會員一分に付金一圓合計十四分半を出資し之を貸付け利殖を圖り後ち田地を買入れ之を墾耕に付し其收益を以て會を維持し來れるものなるが現在田〇甲三

四三〇年收七圓六十錢ありと
觀音會 大林庄溝背

祭神 なし
會員 七人(福建の江姓のみにて組織)

創立 不詳

例祭 舊曆二月十九日

管理 人 大林庄溝背 江新鞍

沿革及經理 本會は無論觀音佛祖を祭る爲め同地福建人の江姓が相謀つて夫々出資の上創立したる者なるが其年次等更だ不明なり而して右出資金は之を貸付けて利殖を謀り相當蓄積の上田地〇甲七三三五(年收三十五圓)を買入れ之を以て會の維持を爲して居ると

清明會 大林庄林頭

祭神 なし
會員 五人(同地江姓)

創立 不詳

例祭 舊曆四月清明日

管理 人 大林庄林頭 江永鳳

沿革及經理 創立の年時不詳なるも祖先の祭祀を爲す爲め創立せる者現財産〇甲三五〇五を有し其收益を以て維持費に充て居ると

羅鼓會 大林庄北勢

祭神 玄天上帝
會員 十六人

創立 明治十三年三月

例祭 舊曆三月三日

管理 人 現在なし

沿革及經理 本祭神を祭り會員の親睦を謀る爲め創立、當初は相當の財産ありしも今は其大部を賣却し現在田二甲六〇七七收益十二圓四十錢あり祭費維持費に充て居ると

福德爺會 小梅庄小梅

祭神 福德爺、保生大帝
會員 二十二

創立 百十餘年前

例祭 舊曆二月二日、八月十五日

管理 人 小梅庄小梅五五四 劉 味

沿革及經理 創立の當初は會員二十七人ありしも經戸の者など出來て現在二十二となれり維持費は所屬財産田一甲七六九五(年收五十圓)、畑〇甲四〇〇〇年收二圓あり之を祭事維持一切の費用に充て居るも財産

造成の状況明らかならずと

天上聖母會

小梅庄小梅六七

祭神 天上聖母
會員 十七人

創立 六七十年前

例祭 舊曆三月廿三日

管理人 小梅庄過山六七 林清連

沿革及經理 北港の天上聖母を勸請し會員の安穩と商賣の繁榮を祈願する爲めに創立し當初會員金一圓宛を醸出し之を貸付けて利殖を圖り毎年聖母誕生日に祭祀を行ひ來りしが其後利息の蓄積と醸金を併せて田地を購入し爾來其收益に依り會の維持費を支辨し居れり現財産は田〇甲三三九五、年收十七圓餘ありと

上帝爺會

小梅庄小半天寮五

祭神 上帝爺

會員 四百五十人

創立 百數十年前

例祭 舊曆三月三日、十月下旬

管理人 小梅庄小半天寮五 李能

沿革及經理 上帝爺廟を建立する爲め庄民協議の上創立せり目的は無論廟の維持の爲めなりしも其後の状況不明にして目下所屬財産田〇甲二三四〇年收七圓五十錢あり會の維持費に充て、居ると

仙師會

小梅庄別頭二一七

祭神 蔡倫仙師

會員 十人(竹紙製造業者)

創立 百五十年前

例祭 舊曆十月三日

爐主 小梅庄別頭二一七 林春枝

沿革及經理 百五十年前陳天生なる者發起にて本會を組織せり會員は各一圓計十圓を出資し之を基本財産として他に貸付け其利息を維持費に充て今日に至ると

三山國王會

小梅庄別頭一四一

祭神 三山國王、郭聖王、觀音

會員 五十人

創立 約九十年前

例祭 舊曆二月廿二日、八月廿二日、十一月中旬

管理人 小梅庄別頭一四一 郭鐵

沿革及經理 本會は三山國王を祀る爲め郭有泰の發

起にて創立せり當初より財産收入を以て祭事を營み他の維持費及芝居の費用等は庄民の喜捨に依つて居ると現財産田〇甲三三〇五年收十六圓ありと

伍媽會

竹崎庄鹿麻産二六二

祭神 天上聖母

會員 十六人

創立 三十五年前

例祭 舊曆三月廿二日

爐主 竹崎庄鹿麻産二六 曾木

沿革及經理 同庄の信者協議の上各一圓宛を出して創立し右醸出金を基本財産として利殖を計り其四十圓に達したるを以て爾來其利息收入を以て會の維持費に充て、居ると現財産貸金四十圓利息年十三圓ありと

土地公會

竹崎庄灣橋四三九

祭神 土地公

會員 八人

創立 光緒十一年

例祭 舊曆二月二日

爐主 竹崎庄灣橋四三九 古金水

沿革及經理 農作物の豐穰を祈る爲め本祭神を祀る會を組織せるものにして現在醸金二十七圓餘あり毎年の利息五圓八十錢あり皆な會の維持費に充て、居ると

祖公會

竹崎庄内埔仔

祭神 林姓の祖四世(外十二世に至る派下

祖父母百七人

會員 同地林姓の者全部

創立 約七十五年前

例祭 舊曆十月十六日、同廿五日、同廿六日、十一月冬至

管理人 竹崎庄内埔仔溪州六四八 林輝

沿革及經理 約七十年前林大鐵、材大峯、林振鳳、林振蘭の四名發起して林廷天外三名の祖先の靈を祀らんが爲め夫々醸金の上本會を創立したる者なるが現所屬財産田三甲一四五、畑〇甲三四一八、建物敷地〇甲二四五五、池沼〇甲一一三五を有し其收益は祭祀費維持費に充て尙ほ餘裕あれば前記發起者四房に分配して居ると

神明會

竹崎庄金獅寮二七

祭神 蔡偏先師爺

會員 十人(同庄竹紙製造業者)

創立 光緒十四年
 例祭 舊曆十月三日
 爐主 竹崎庄金獅寮二七 劉運碧
 沿革及經理 同地の竹紙製造業者等が斯業の隆昌を祈る爲め造紙の神を祀るべく創立したる會にして創立者は同地劉俊選なり當初會員一名より一圓宛を醸出し先づ祭神を刻み其餘剩を利殖して會の維持に充つる事としたるか現在金七十五圓年利息八圓の收入ありと

天上聖母會 竹崎庄山仔門

祭神 媽祖母神
 會員 百六十人
 創立 二百年前
 例祭 舊曆三月廿三日
 爐主 竹崎庄山仔門 鄭有義

沿革及經理 庄内の安穩息災を祈願する爲め朱鳥記、邱有、顔連池等發起し會員一人より粗五升を醸出して本會を創立し粗を金に代へ畑一甲七分を買入れ此収益を以て會の維持に充て居るか此收入年二十五圓餘ありと

福德爺會 竹崎庄番子潭

祭神 福德爺
 會員 百六十人
 創立 約二百年前
 例祭 舊曆八月十五日
 爐主 竹崎庄番子潭 蔡福

沿革及經理 創立は古きも明治二十年頃より一時廢會、同三十五年翁勃、翁建朝等主唱の下に再興せり再興の際所屬財産を購入し其収益を會の維持費に充つる事として今日に至る現財産田〇甲四九六五、畑一甲三一七〇年收益三十圓ありと

許二十日會 竹崎庄菴子科

祭神 太陽日輪
 會員 百五十人(同地許姓のみ)
 創立 明治二十五年
 例祭 なし

沿革及經理 庄の平穩と農作物の豐穰を祈る爲め許生、許派等發起して本會を創立せりと云ふも爐主管理人は勿論經理の狀況も不明なり

食福會 番路庄番路

祭神 福德正神、三界公會
 會員 五十人

創立 嘉慶八年
 例祭 舊曆十月十五日
 管理人 竹崎庄内埔子二九 林盛
 沿革及經理 元來會名ありて祭神なかりしを番路庄の區長林起主唱して二十圓の寄附を募り福德正神の石堂石碑を建立せりと創立の當初會員各一圓宛を醸出して基金としたりと云ふも其費途不明なり現在に維持費祭祀費は會員平等に負擔し居れりと云ふのみ

吳鳳會 番路庄公田四七

祭神 吳鳳公
 會員 十七人
 創立 光緒十八年
 例祭 舊曆八月三日
 管理人 番路庄公田四七 劉潤

沿革及經理 今より二十餘年前上帝爺の祭典祈禱の際吳鳳は兇蕃を撫育し庄民に危害を加へざるに至らしめたる者なれば祀らざるべからずとの神託あり公田の劉潤吳鳳の像を作り信者十人にて本會を創立せり從來些の所屬財産なく祭事費は會員の負擔として維持し來りたるか十餘年前會員より金四十圓を醸集し之を他に貸付け利殖を圖り會の維持費に充て居れりと

觀音媽會 番路庄番路一〇

祭神 觀音媽
 會員 六人
 創立 約百年前
 例祭 舊曆二月十九日、十一月十九日
 管理人 番路庄公田一〇 林德

沿革及經理 兇蕃の危害を免かるべく祈願する爲め林朝英の發起にて創立したる會なるも現在は兇蕃の危害も皆無となりたれば會も亦た廢止の狀態に在りと

上帝爺會 番路庄番路三九

祭神 上帝爺
 會員 二十人
 創立 咸豐十一年
 例祭 舊曆三月三日
 管理人 番路庄公田三九 馬文吉

沿革及經理 最初同地馬友生の宅に奉祀せる同祭神が病氣其他に靈顯著しとして信仰者十六人協議の上本會を創立したるも光緒二十年頃までは何等財産なく祭費維持費共會員の各自負擔に依りしか光緒二十年會員各二圓宛を出金して基金とし之れか利息を以て維持費に

充つる事とせり現在年利息收入八圓ありと

福德爺會

番路庄番路二五二ノ一

祭神 福德正神

會員 三十四人(同庄客庄在住者)

創立 昭和八年二月

例祭 舊曆一月十五日

管理人 番路庄番路遊世、同陳頭

沿革及經理 本會は庄民の平穩を祈り會廟の祭典を行ふ可く創立されたるものにして所屬財産田一甲五六四五、畑十一甲〇二五五、山林〇甲一八五九、建物及祠廟敷地〇甲五〇四〇、會廟一棟を有し年收八十圓以上ありと

三官會

中埔庄鹽箱二四四

祭神 三官大帝

會員 十六人

創立 嘉慶二十年

例祭 舊曆一月十五日、十月十五日

管理人 中埔庄鹽箱二四四 林 寶

沿革及經理 庄内に惡疫風水害等の災厄なき様祈願する爲め陳寔なる者の發起にて創立せり而して會員は持分一分に付十五六圓宛を醸出し其十六分の合計にて所屬財産を購入し其收益に依り今日まで會を維持し來れりと現財産田一甲〇二四五、年收益三十圓餘ありと

福德爺會

中埔庄鹽箱二七一

祭神 福德正神

會員 十六人

創立 約百年前

例祭 舊曆二月廿二日、八月十五日

管理人 中埔庄鹽箱二七一 蔡之通

沿革及經理 農作物の豐穰を祈る爲め會員出資所屬財産を買入れ本會を創立したるものにして創立以來財産收入に依り會を維持し來れり財産田〇甲七九六〇、年收益十三四圓ありと

觀音佛祖會

中埔庄白芒埔九六

祭神 觀音佛祖(從祀)天上聖母、太子元帥

會員 三百五十四人

創立 約八十年前

例祭 舊曆二月十九日、三月廿二日、八月十五日、九月九日、十一月十五日

爐主 中埔庄白芒埔九六 方乞食

沿革及經理 道光二十五年頃柳千林の觀音佛祖と北港の天上聖母とを當地江家の祖先が分香奉祀して本會を創立せり又太子元帥は十四年前同地汪知高が奉請し來れるを合祀せる者にして會の維持に就いては毎朝夕の香油費は汪家十二月にて負擔し祭典の演劇其他の費用は一般會員にて負擔すると

觀音佛祖會

中埔庄竹頭崎一七六

祭神 觀音佛祖、(配祀)大媽、一媽、二媽、三媽、(從祀)五谷聖帝、福德正神、三官大帝

會員 六百六十二人

創立 乾隆二十四年

例祭 舊曆一月十五日、二月十九日、四月十六日、八月十五日、十月廿六日

爐主 中埔庄竹頭崎一七六 陳 錦

沿革及經理 同地の湯藍美の祖先が廣東省南海觀音堂より祭神を奉請し來りしものにて自宅に安置し朝夕の禮拜燒香等自費を以て行ふ祭典の節は會員より寄附を仰いで之を行ふと

福德爺會

中埔庄下六一二九

祭神 福德爺

會員 四十人

創立 約百十餘年前

例祭 舊曆一、二月の候(不定期)

管理人 中埔庄下六一二九 羅 番

沿革及經理 百十餘年前下六庄土名中庄の羅法なる者發起し本島人全部を會員として本會を創立せり當初會員より應分の贖金を募り田地を購求し其收益を以て會の維持費に充つる事としたるが其後嘉義街の林貫世なる者中庄附近に無斷にて墓地を設け庄民の抗議に達ひ地代として五十圓を支拂ひたれば之にても土地を購入せりと現財産田〇甲九七〇五、建物敷地〇甲〇一八五年收益十四圓ありと

池王爺會

中埔庄下六一〇一

祭神 王爺

會員 十二人

創立 百十餘年前

例祭 舊曆一月十八日

管理人 中埔庄下六一〇一 陳 醜

沿革及經理 今を去る百十餘年前同地に惡疫流行したれば司公郎より王爺を請し來り祈禱したるに漸次終熄したれば本祭神を刻み本會を創立したるものにして

當初會員各自祭費の負擔を爲し來りたるが六七十年前田地を購入し其收益を祭費及維持費に充つる事としたりと現在田〇甲五三六〇年收益十六圓ありと

池王爺會 中埔庄下六一〇四

祭神 池王爺
會員 六人

創立 約百三十年前
例祭 舊曆一月十八日

管理人員 中埔庄下六一〇四 蘇能居

沿革及經理 百三十年前同地に惡疫流行したる際司公廊より池王爺を請じ來り祈禱したるに惡疫熄滅したれば本會を創立して永く祭祀を怠らざる事とせり最初は祭費維持費等會員各自醱集し來りたるが六七十年前蘇萬來なる者發起して會員協議醱金の上現財産たる田地〇甲一九四〇(年收七圓餘)を買入れ之を以て維持費祭費に充つる事とせりと

五谷王會 中埔庄下六一一四

祭神 五谷王
會員 二十四人

創立 約百六十年前
例祭 舊曆四月廿五日

管理人員 中埔庄下六一一四 林鼻賦

沿革及經理 作物の豐穰と會員の息災を祈る爲め創立され最初は祭費維持費共會員各自負擔し來りたるが明治二十七八年頃林水盛の發起にて各自醱金の上畑〇甲六四四〇(年收益十二圓)を購入し其收益を祭費維持費に充つる事とせりと

趙子龍爺會 中埔庄社口三五〇

祭神 趙子龍爺、觀音佛祖、上帝爺、福德爺
會員 六人(黃、陳、鄭三姓の者)

創立 百三十年前
例祭 舊曆八月十六日

管理人員 中埔庄社口三五〇 黃文遠

沿革及經理 單に百三十餘年前創立せりと云ふの外沿革詳かならず殊に領臺當時管理人たる陳順義は素行修まらず所屬の土地を賣却せんとし且つ借金の爲め同地に居住する能はず行衛不明となりたれば現管理人選ばれて其任に就けりと所屬財産田〇甲六九六〇年收八十二圓餘祭費維持費に充てゝ居ると

池王爺會 中埔庄深坑一九八

祭神 池王爺(從祀、方氏娘々)

會員 三百九十五人
創立 嘉慶二十二年

例祭 舊曆一月十八日、十一月五日

管理人員 中埔庄深坑一九八 吳知高

沿革及經理 本會の祭神王爺は司公廊より方氏娘々は關仔嶺の南方民家より分祀し來る者にして本會員は總て火山廟の信徒なりと燒香費は管理人にて負擔し年二回の祭典費は會員の醱出に待つと

觀音會 大埔庄大埔

祭神 觀音佛祖
會員 二十人

創立 乾隆三十年
例祭 舊曆九月十九日

沿革及經理 本會の祭神は同地最初の移住民が支那より携へ來り自家に奉祀せる者を附近の住民信仰して本會を創立せり爾來祭費維持費は會員の均等負擔としてたるが明治二十八年頃土匪蜂起の爲め一時廢止の姿となれり然るに同四十二年葉正權遠富欽等再興して基本金七十圓を醱出し之れが貸付利息にて祭費維持費を支辨し今日に至ると尙ほ本會には管理人なく會頭一名あり輪番に就任すと

聖母會 大埔庄大埔四一一

祭神 天上聖母
會員 十七人

創立 嘉慶二十年
例祭 舊曆三月六日

管理人員 大埔庄大埔四一一 黃標

沿革及經理 本會は北港媽祖の信者に依りて創立されたる者にして當初會員一同出金して土地を買入れ其收益を以て會の維持費に充つる事としたるも該土地は現在曠耕希望者なき爲め維持費祭費は會員各自負擔し居れりと

轎班會 大埔庄大埔二一五

祭神 玄天上帝
會員 五十人

創立 同治四年
例祭 舊曆三月三日、九月九日

管理人員 大埔庄大埔二四〇 葉喬

沿革及經理 本會は當地の玄天上帝廟創立と同時に組織されたる者にして同廟祭典の際轎班として出役するの義務を有し明治二十九年迄は大轎班、二轎班、三轎班、四轎班ありしも同年三轎班解散せるを以て現在

は大、二、四の三班五十餘人の會員あるのみ維持は所屬財産田一甲九〇一五、年收三十圓及基本金七十圓年利子十四圓あり祭典費維持費に充て居ると

土地公會 大埔庄大埔三八二

- 祭神 福德爺
- 會員 八人
- 創立 乾隆三十年
- 例祭 舊曆八月十五日
- 管理人 大埔庄大埔三八二 陳賀

沿革及經理 農作物の豐穰を祈る爲め庄民中の有志協議して本會を創立し田地一甲餘を買求め其收益にて祭祀を行ふ事としたるが明治三十年頃までは小作希望者多く年三十圓内外の收益ありしも現今は小作料下落して四圓内外となり祭費に不足を生ずるを以て其不足額は會員より醸出して居ると

斗六郡宗教體團

斗六街

六房媽會 斗六街大北勢

- 祭神 天上聖四將軍
- 會員 約二百人(斗六、西保、土庫、打猫の林姓)
- 創立 約二百年前
- 例祭
- 爐主 斗六街大北勢 林詩禮

沿革及經理 支那徽州より渡來せる林姓六人の兄弟が一は大勢庄、次は海豐嶺庄、惠來厝庄、新庄、五間厝庄、土庫庄の六箇所に分住し輪番に媽祖を奉祀する事として今日に至るものにして各地其祭費の醸出を異にし大北勢にては爐主一人にて之を負擔し所屬財産として基本金三百十圓を有するも其造成の次第不明

師明公會 斗六街保長廊

- 祭神 師明公
- 會員 十人
- 創立 約二百年前
- 例祭 舊曆一月六日
- 爐主 斗六街保長廊 張根

沿革及經理 創立は約二百年前なるも管理人が所屬財産を消費し一時廢會となり居りしを明治四十二年張

友外九名共同して民有地を購耕し其利益を資金とし毎年一回祭祀を行ふ事として再興せり現所屬財産貸金五十圓年利息十圓ありと

太子爺會 斗六街榮公

- 祭神 太子爺
- 會員 六人
- 創立 約百二十餘年前
- 例祭 舊曆九月九日
- 爐主 斗六街榮公 石坤水

沿革及經理 榮公の李姓の祖先が支那より祭神を奉持し來り自家に奉祀せるに同家は常に災厄を免かれ家内安全なるより附近の者も之を信仰し遂に本會を創立するに至りたるが創立當時會員各自六斗を醸出し之を金に代へ他に貸付けて利殖を謀り之れにて祭費及會の維持費に充て居ると現在貸付金二十六圓年利息六圓ありと

明神會 斗六街榮公

- 祭神 太子爺、帝爺、國姓、媽祖
- 會員 八百五十人
- 創立 百二十餘年前
- 例祭 一定せず
- 爐主 斗六街榮公卓山和、同許火列、同劉印
- 管理人 同 林得輝

沿革及經理 庄民の享福安全を祈る爲め創立し祭費維持費は一般の寄附に依れり財産としては建物敷地〇甲二一〇〇あるのみと

大道公會 古坑庄高厝林子頭

- 祭神 保生大帝
- 會員 十六人
- 創立 明治四十二年
- 例祭 舊曆三月十五日
- 爐主 古坑庄高厝林子頭 鄒笨

沿革及經理 會員各自の生命財産の保護を祈らん爲め約百年前に創立されたるも明治四十二年其所屬財産田約一甲歩畑約九分を賣却して解體せり然るに會員高旺は前記田畑の賣却價格低廉なりと不平を唱へ買受人高甘堂は金十圓、高漢脚は金二圓を出す事となりたれば其他の會員も各一圓宛を醸出し之を利殖して祭費を支辨する事として會を再興せり現在貸付金十圓利息年六圓ありと

神名會 古坑庄高厝林子頭